

平成 29 年度 滋賀県地域リハビリテーション人材育成研修
報告書

平成 30 年 3 月

滋賀県立リハビリテーションセンター 事業推進係

—目次—

第1章 本研修の目的と趣旨

- 1. 本研修の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2. 本研修の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 3. 研修構成と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2章 研修内容の摘要

- 1. 実施結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- 2. カリキュラムⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 3. カリキュラムⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 4. カリキュラムⅢ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
- 5. カリキュラムⅣ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

第3章 本研修の成果

- 1. 事業評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
- 2. 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
- 3. 補足資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

第 1 章 本研修の目的と趣旨

1. 本研修の目的

近年、高齢者、障害者、児童等への総合的な支援体制の構築や地域包括ケアシステムの構築に向けてリハビリテーション専門職（以下、リハ専門職）の専門性が強く求められている。一方、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハ専門職は教育課程において、「障害や疾病」に関する専門性を持っているが、地域包括ケアシステムなどの地域リハビリテーション（以下、地域リハ）の推進に必要な「地域資源などの地域現状の理解」や「地域とのネットワーク構築」、そして地域でその専門性を活かす「コーディネート」に関する教育を受けているとはいいがたい。

そこで、地域リハを推進するために、リハ専門職が自らの“地域”を理解し、業務を行う上で必要となる基礎的な知識や技術を習得することにより、地域住民がどのライフステージにおいても住みなれた場所で暮らし続けることができる地域づくりに寄与できるリハ専門職の人材の養成を目的に事業を実施する。

2. 本研修の趣旨

本研修の趣旨は、下記の知見の理解および習得である。

- ① 地域共生社会について理解し、その中でのリハビリテーション専門職種役割について
- ② 滋賀県内で実施されている地域共生社会に向けてさまざまな取り組みについて
- ③ 地域リハビリテーションを推進するために求められる能力について
- ④ 地域課題の把握とその解決策の提案について

3. 研修構成と概要

本研修は「Ⅰ. 地域共生社会に求められるリハ職」、「Ⅱ. 地域リハビリテーションを推進する地域資源とその現状」、「Ⅲ. 地域リハビリテーションの推進に求められる能力」、「Ⅳ. 地域リハビリテーションの推進に向けた実践」の 4 部で構成した。

① 実施主体および共催

主催：滋賀県立リハビリテーションセンター

共催：滋賀県理学療法士会、滋賀県作業療法士会、滋賀県言語聴覚療法士会

② 公募期間

平成 29 年 7 月 27 日（木）～平成 29 年 8 月 17 日（木）

③ 日程

平成 29 年 9 月 3 日（日）～平成 30 年 3 月 4 日（日）

④ 定員

15名程度

⑤ 受講対象者

下記(1)～(3)のすべてを満たすもの

- (1) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士として3年以上の経験を有し、県内で勤務している者
- (2) 地域リハビリテーションの推進に寄与する意欲がある者
- (3) 所属機関から推薦および承諾を受けた者

⑥ 修了要件

(1)原則すべての講義・演習・見学実習に出席すること

*ただし、DVD補講が実施される研修については、補講およびレポート提出にて出席とみなすことができる。

*受講者が欠席等で年度内にプログラムを修了することができなかった場合は、欠席した講座内容に対応する次年度の講座を受講することで、修了に必要な要件を満たすことができる。(この場合修了証書の授与は、要件を満たした年度末とする。)

(2)修了した者には、修了証書を授与する。

(3)修了者のうち修了者名簿の掲載について同意の得られたものに関しては、研修修了者として名簿を作成し、広く公開する。

⑦シラバス

科目名

I. 地域共生社会に求められるリハ職 (600分)

受講生の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域 / 地域共生社会とは何か考えを述べるができる。 ・ 様々なライフサイクルの中で自助・共助・公助が絡み合うことの大切さを説明することができる。 ・ 地域共生社会の実現に求められているリハ職像を述べるができる。 ・ 様々な制度や社会情勢の中で、リハ専門職が活躍していることを知っている。
----------	---

内容	<p>①地域共生社会の実現に向けた動きと方向性 (60分) 政策研究大学院大学 教授 小野 太一 氏</p> <p>②地域リハビリテーションの基本理念と地域共生社会に向けて地域で求められるリハ職 (90分) 神戸学院大学 教授 備酒 伸彦 氏</p> <p>③地域共生社会の実現に向けて、先進的な取り組みを行うリハ職の実践 ーリハ職の視点を活かすー (90分×5コマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白鳳短期大学 高畑 脩平 氏 OT (こども 行政・大学・企業・NPOとの連携) 2. 岡山県津山市 安本 勝博 氏 OT (街づくり・地域づくり) 3. 医療法人清風会 就労支援センターonwArk 金川 善衛 氏 OT (就労支援) 4. 首都大学東京 信太 奈美 氏 PT (障害者スポーツ) 5. 東京大学医学部付属病院 22世紀医療センター 川又 華代 氏 PT (産業保健) 	<p>【講義】</p> <p>【講義】</p> <p>【講義】</p>
----	---	-------------------------------------

科目名

II. 地域リハビリテーションを推進する地域資源とその現状 (280分)

受講生の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 滋賀県の障害福祉の仕組み (理念・法律・サービス・地域での動き) について概要を知っている ・ 地域共生社会の実現に向けて活動する障害福祉の取り組みについて知っている
----------	--

内容	<p>①障害福祉を取り巻く法制度の概要の基礎～共生社会に向けて～ (60分) 滋賀県自立支援協議会 事務局長 中島 秀夫 氏</p> <p>②滋賀県の障害福祉における政策とリハ職への期待 (40分) 滋賀県健康医療福祉部障害福祉課 課長 丸山 英明 氏</p> <p>③滋賀県内の地域共生社会の実現に向けた、先進的な取り組み (45分×4箇所)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 米原市地域包括医療福祉センター ふくしあ 2. やまなみ工房 【生活介護・就労継続 B 型】 3. カルビー・イートク株式会社 【特例子会社】 4. 特定非営利法人 YASU ほほえみクラブ 【総合型地域スポーツクラブ】 	<p>【講義】</p> <p>【講義】</p> <p>【講義】</p>
----	---	-------------------------------------

科目名 Ⅲ. 地域リハビリテーションの推進に求められる能力 (360分)

受講生の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域リハビリテーションを支える支援者の専門性や価値観を説明できる ・ リハ専門職の専門性を他の支援者に理解できるように説明することができる ・ 自らが勤める地域にどのような地域資源があるか調べ、述べるができる ・ 地域診断に必要な能力を述べるができる
----------	--

内容	①リハ専門職に求められる多職種連携に必要な能力 (180分) 吉備国際大学保健医療福祉学部 作業療法学科 京極 真 氏	【講義&GW】
	②リハ専門職に求められる地域評価・診断の基礎 (180分) 神戸学院大学 教授 備酒 伸彦 氏	【講義&GW】

備考	* ①については、滋賀県立成人病センター教育研修センターが実施した「医療専門職等育成研修」を修了したものは出席したものとみなすことができる。
----	--

科目名 Ⅳ. 地域リハビリテーションの推進に向けた実践 (1060分)

受講生の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的に“人”や“地域”を見る視点を再確認することができる ・ リハ職が自らの視点を他職種に理解してもらえるような説明が行える ・ 地域での課題を解決するための方策を立案できる ・ これから地域でリハ専門職に求められる能力を述べ、自らのこれからの行動立案が行える
----------	--

内容	①地域リハビリテーションマネジメント基礎演習 (180分) 神戸学院大学 教授 備酒 伸彦 氏	【オリエン・課題】
	②現場見学 (260分×2) (5コースのうち2つを選択 *必須) リハセンター職員	【見学実習】
	③地域リハビリテーションマネジメント実践演習 (360分) 神戸学院大学 教授 備酒 伸彦 氏	【プレゼン】

【カリキュラム総時間 2300分】

⑧ カリキュラム内容および日程・講師

回	日時	カリキュラム名・講師
第1回	9月3日(日) 12:55~15:00	<u>地域共生社会の実現に向けて、先進的な取り組みを行うリハ職の実践1</u> 1. ども・教育領域 白鳳短期大学 高畑 脩平 氏 (作業療法士) 「小児領域における医療—教育—福祉—企業との連携」 * 受講者オリエンテーション
第2回	9月10日(日) 9:55~14:00	<u>地域共生社会の実現に向けて、先進的な取り組みを行うリハ職の実践2</u> 2. 地域づくり・街づくり領域 岡山県津山市 安本 勝博 氏 (作業療法士) 「介護予防から始まる地域づくり〜からだところのお付き合い〜」 <u>地域リハビリテーションの基本理念と地域共生社会に向けて地域で求められるリハ職</u> 神戸学院大学 備酒 伸彦 氏 (理学療法士)
第3回	10月21日(土) 12:55~17:25	<u>地域共生社会の実現に向けた動きと方向性</u> 政策研究大学院大学 小野 太一 氏 <u>地域共生社会の実現に向けて、先進的な取り組みを行うリハ職の実践3</u> 3. 就労支援領域 医療法人清風会 就労支援センターonwArk 金川 善衛 氏 (作業療法士) 「地域共生社会の実現とはたらくことを支援すること」 4. 障害者スポーツ領域 首都大学東京 信太 奈美 氏 (理学療法士) 「地域共生社会の実現と障がい者スポーツ」
第4回	10月22日(日) 12:55~15:30	<u>滋賀県の障害福祉における政策とリハ職への期待</u> 滋賀県健康医療福祉部障害福祉課 丸山 英明 氏 <u>滋賀県内の地域共生社会の実現に向けた先進的な取り組み 1</u> 米原市地域包括医療福祉センター ふくしあ 中村 泰之 氏 特定非営利法人 YASU ほほえみクラブ 外田 順一 氏
第5回	10月28日(土) 10:55~16:30	<u>障害福祉を取り巻く法制度の概要の基礎〜共生社会に向けて〜</u> 滋賀県自立支援協議会 中島 秀夫 氏 <u>滋賀県内の地域共生社会の実現に向けた先進的な取り組み 2</u> やまなみ工房 山下 完和 氏 カルビー・イートーク株式会社 北村 克家 氏 <u>地域共生社会の実現に向けて、先進的な取り組みを行うリハ職の実践4</u> 5. 産業衛生領域 東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター 川又 華代 氏 (理学療法士) 「リハ専門職による産業保健領域での関わりについて」
第6回	12月17日(日) 12:55~16:00	<u>リハ専門職に求められる多職種連携に必要な能力</u> 吉備国際大学保健医療福祉学部 作業療法学科 京極 真 氏 (作業療法士)
第7回	12月23日(土) 9:50~17:00	<u>リハ専門職に求められる地域評価・診断の基礎 / 地域リハビリテーションマネジメント基礎演習</u> 神戸学院大学 教授 備酒 伸彦 氏 (理学療法士)
第8.9回	1月~2月	見学実習* ¹⁾
第10回	3月4日(日) 9:50~17:15	<u>地域リハビリテーションマネジメント実践演習</u> 神戸学院大学 教授 備酒 伸彦 氏 (理学療法士)

表1.カリキュラムおよび日程・講師

日時	見学施設
1月14日(日) 10:00~12:30	びわこ学園医療福祉センター野洲
1月15日(月) 15:00~17:00	カルビー・イトーク株式会社
1月24日(水) 13:30~16:00	滋賀障害者職業センター (ジョブスタイルしが)
1月30日(火) 10:00~12:00	社会福祉法人 ぱれっとみる
2月1日(木) 13:30~16:15	さわらび作業所
2月5日(月) 9:30~12:45	大津市立やまびこ総合支援センター
2月7日(水) 13:30~15:40	就労継続支援事業所 サンサン
2月8日(木) 15:30~18:00	YASU ほほえみクラブ
2月9日(金) 10:00~16:00	NPO 法人ぼぼハウス
2月13日(火) 13:00~15:00	やまなみ工房
2月14日(木) 13:30~15:40	滋賀県立むれやま荘
2月19日(月) 9:30~12:45	大津市立やまびこ総合支援センター
2月20日(火) 13:30~16:30	甲賀圏域障害児・者サービス調整会議 (定例会)
2月21日(水) 13:30~15:30	米原市地域包括医療福祉センター ふくしあ
2月26日(月) 13:30~16:15	ワークステーション虹

表2. 第8回・第9回見学実習

第2章 研修内容の摘要

1. 実施結果の概要

① 応募者数 42名 (すべてのものを受講決定とした)

(a) 二次医療圏別参加者内訳

圏域名	人数	人口比(10万人あたり)	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
大津	5	1.46	3	2	0
甲賀	7	4.84	6	1	0
湖南	10	2.98	6	3	1
東近江	9	3.91	3	6	0
湖東	2	1.28	1	1	0
湖北	1	0.63	1	0	0
湖西	8	16.0	6	2	0
合計	42	2.97	26	15	1

*人口は2016.10.1データで計算

(b) 勤務機関種別参加者内訳

病院 (一般・成人)	16
病院 (小児専門)	2
老人保健施設	6
通所リハビリテーション	6
通所リハビリテーション・放課後等サービス	1
通所介護事業所	4
訪問リハビリテーション	1
診療所	1
社会福祉協議会	1
養成校	1
行政機関	3

② 各開催日受講者の理解度・活用度・実践度、および参加者数・出席率

出席率 **89.3%** (第1回目～第10回目)

【講義形式 (第1回～第7回、第10回) の出席率 : 86.9% 見学実習 (第8回、第9回) の出席率 : 97.9%】

	理解度	活用度	満足度	出席率	出席者数	欠席者数	補講者数
第1回～第7回、第10回	4.12	3.65	4.30	86.9	292	44	30
第8回～第9回 (見学)	4.27	3.73	4.48	97.9	94	2	-

*理解度 (1 理解できなかつた～5 よく理解できた) 活用度 (1 活かせない～5 すぐに活かせる) 満足度 (1 不満～5 大変満足)
とし、それぞれの数値は当日参加者の平均値とする。

③ 修了者数 (率)

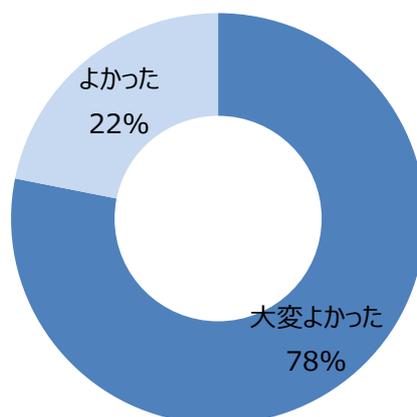
35名 (**83.3%**)

圏域名	人数	修了率	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
大津	4	80.0	2	2	0
甲賀	4	57.1	4	0	0
湖南	7	70.0	4	2	1
東近江	9	100.0	3	6	0
湖東	2	100.0	1	1	0
湖北	1	100.0	1	0	0
湖西	8	100.0	6	2	0
合計	35	83.3	21	13	1

④ 受講者の研修全体を通じての印象（事後アンケートより）

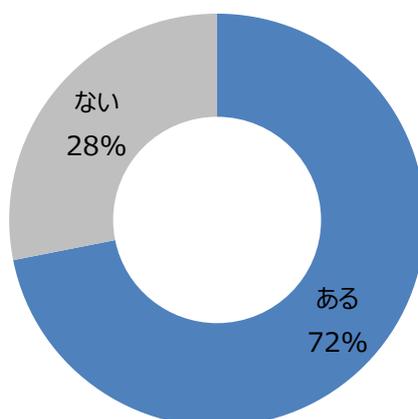
(a) 研修全体を通じての印象（N=31 回収率 85.7%）

研修全体の印象



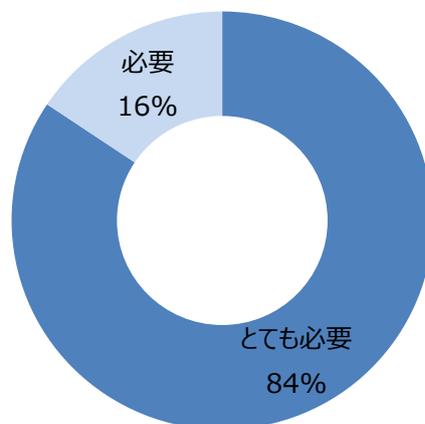
(b) 研修全体を通じての印象（N=31 回収率 85.7%）

すでに実践に活かしている行動や活動



(c) リハビリテーション専門職の医療・介護領域以外での活動の必要性について

リハビリテーション専門職の医療・介護領域以外での活動の必要性



2. カリキュラム I 地域共生社会に求められるリハ職

① 地域共生社会の実現に向けた動きと方向性 小野 太一 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・小野先生の研修内容全般的に日本社会情勢や今後の動向について学び、リハビリテーション専門職として、今日のリハビリテーションが成立している背景が理解できた。今後私が働いている地域情勢をしっかりと理解した上で、地域リハビリテーションについて今一度考えていきたいと感じた。
- ・平成 30 年度の診療報酬改定やその他地域リハ分野に関して、情報収集に有効な方法（例えば、このサイトの情報が速い、この勉強会が毎回役に立つ等）があれば、今後の講義の中で提示いただけると有難いです



② 地域リハビリテーションの基本理念と地域共生社会に向けて地域で求められるリハ職 備酒 伸彦 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・ケアについては、国の方針が正解と思わず、現状を今一度疑うことも大切。【何が大切なのか】を常に自分で考え、既成概念にとらわれずに大胆な発想も必要。北欧では【普通の生活を普通にサポートする】ことが当たり前になっている。それはケアだけではなく、環境に対してもあてはまる。
- ・北欧との意識の違いに驚きました。国の違いとして食事の場の提供・移乗における介助・施設のインテリアなどの他にもう少し実際に見てこられたことで印象に残っていることがあれば教えていただきたいです。



③ 地域共生社会の実現に向けて、先進的な取り組みを行うリハ職の実践 ーリハ職の視点を活かすー

小児領域における地域リハビリテーション-医療・教育・福祉・行政・大学・企業の連携- 高畑 脩平 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・個別リハビリから地域・教育現場にリハビリを繋げるためには、まわりへの配慮や現場の状況などに合わせた工夫が必要・重大である事はわかりました。リハビリで行っている内容が生活の場面において活用されるのには、周りの理解が大切であり、納得させられるデータや目に見ての変化がないと難しいことも知ることが出来ました。いろんな機関の繋がりやアイデアはたくさん持っておいた方が良いことも感じる事が出来ました。他機関への打開策の一例を教えていただいた事で、現場の要求する事・コスト面の問題の一手段も知ることが出来よかったです。
- ・地域(今回は教師や保育士など)の理解を得るためには、データ(映像も含め)や、理論(なぜそのことが必要なのか)を分かりやすく伝える必要がある。
- ・どのように継続していくかを具体的に提案(特別なものではなく現在あるものを工夫して)することが大切。
- ・地域の現場でも、どのような形でより活かせるかを考えてもらい、派遣する側 される側の「共働」が大切である。→「地域に種をまいて実らせる」ことが必要。



③ 地域共生社会の実現に向けて、先進的な取り組みを行うリハ職の実践 —リハ職の視点を活かす—

介護予防から始まる地域づくり～からだところのお付き合い～ 安本 勝博 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・エンドユーザー（住民）が主役。エンドユーザーに活かされるような内容を意識して支援ができていくかを考えていくことが大切。そのためには対象者がどんな目標を持っておられるのか、また、何をしているときが一番幸せかなどの具体的な内容をスタッフ、家族など皆が共有。それに向かって、体操などを続けていることを対象者に意識してもらうことが継続支援にとっては大切。健康の定義を念頭においたアプローチが重要。
- ・ケアについては、国の方針が正解と思わず、現状を今一度疑うことも大切。
- ・地域リハビリテーション支援について求められていることは、自立支援であり、セラピストが国から求められている期待として短期集中的に効果をだし、社会参加に繋げ、生活行為課題の解決を行っていくことだということが重要だと思いました。
- ・また、地域での健康づくりや介護予防事業などはただやるのではなく、その事業の目的や目標を明白にし、何のためにやっているかを支援者側だけではなく、地域住民の方も理解し、自律的に取り組んでいくことの重要性を感じ、今後活かしていきたいと考えました。



③ 地域共生社会の実現に向けて、先進的な取り組みを行うリハ職の実践 —リハ職の視点を活かす—

リハ専門職が関わる“働く”支援の実際 金川 善衛 氏

受講者レポート（抜粋）

・人間の働くという営みの持つ基本的な意味が、ただ単に雇用労働における労働の意味だけでなく、自営業や家事労働の生活、また、無業の人間といわれるものであっても、直接間接なんらかの意味で働く生活と考えられる機能を営んでいるかもしれないこと、存在自体が広い意味での社会とのつながりをもつ働く営みのひとつの形態として必要であることが新たな気づきとなった点です。また、実際の就労支援において精神障害の方のニーズが増えていること、また就労支援においてセラピストは医学的な知識を強みとして専門性が発揮できる部分について気づきとなりました。

・今回の研修会で、初めて就労支援というシステムを知りましたが、その中でも身体障害や知的障害の方へというイメージでした。精神障害の方は障害のイメージが企業の方や一緒に働くスタッフに伝わりにくい中、わかりやすい言葉で伝えることの大切さを知りました。周囲のスタッフがその他を理解することにより、現場でサポートしてもらいながら働けると、離職が少なくよりよく働ける良い環境が作れるという点を忘れないようにしたいです。



③ 地域共生社会の実現に向けて、先進的な取り組みを行うリハ職の実践 ーリハ職の視点を活かすー

リハ専門職による産業保健領域のかかわりについて 川又 華代 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・産業保健領域では、身体機能面の予防だけではなく、メンタルや就労環境面への予防的なアプローチをあわせて行う必要があると思います。また、リワーク支援への介入も重要な役割もあるのではないのでしょうか。
- ・産業保健分野にすぐに介入することは難しいが、まずは自身の職場から実施していくことも必要だと思いました。派遣事業として産業保健分野に介入していけると思いました。



③ 地域共生社会の実現に向けて、先進的な取り組みを行うリハ職の実践 ーリハ職の視点を活かすー

地域共生社会の実現と障がい者スポーツ 信太 奈美 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・障害スポーツは、障害だけではなく障害のない人もルールによりフェアに楽しめることに気付かされました。
- ・スポーツは世界の共通言語であり、ルール（わざと不自由な条件）の中で目標を達成することに意義があるという点においては、障害自体をルール（できないこと→不自由な条件）にしてそれを「楽しむ」ことで、スポーツという意味は健常者と同じであると感じた。また、スポーツで勝つためには他人とコミュニケーションをとることが絶対条件となるので、内向的な性格でも自分からの表現の機会が増え、地域でスポーツを行うことそのことが地域の中で自分を表現していける手段となるとわかった。
- ・能力差を明らかにする「スポーツ」が障害を受け入れることにつながる可能性がある。ルールにより能力差をフェアにすることで健常者も障害を理解できる可能性があると感じた。



3. カリキュラムⅡ 地域リハビリテーションを推進する地域資源とその現状

①障害福祉を取り巻く法制度の概要の基礎 ～共生社会に向けて～

中島 秀夫 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・障がい者児政策については知らないことが多くあり、知識として増やすことができました。また、小児と高齢者が別々に捉えられている現状から、混ざり合う社会を目指していくことも必要だと感じました。
- ・中島先生の研修で、本人の意思決定の重要性を改めて気づかされた。特に介護保険分野ではケアプランが次第に、介護者のためになってきているように感じていました。その中で、目標や方針の合意形成が非常に難しいように思っています。リハビリマネジメントは其中でも非常に重要なことと思いました。特に来週にはリハビリ会議を開催予定ですので、誰のための誰が決めた支援なのか、理由を特に考えて支援にむけられるように思いました。



②滋賀県の障害福祉における政策とリハ職への期待

丸山 英明 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・ 滋賀県の福祉の歴史の理解が深まった。以前より滋賀県は障害福祉の発祥の地と聞いていたが、詳しく講義を受けたのは初めてで誇りに思う。中でも社会モデル「健全者—その他の者の間にできる障壁は制度、概念を含むすべて」で急性期病院の中で医学モデル中心に考えていた私には衝撃でした。
- ・ 福祉分野でもリハ職の客観的な支援が必要だということが、あらためてわかった。社会の働く人の中で2.2 (2.3) 人 障害者枠があるのであれば、しっかりとリハ職での就労支援（細かなフォロー）が必要と感じた。
- ・ 障害者福祉の歴史や政策については、知らないことが多くあり勉強になりました。また、障害者差別解消法など新たな政策もあり知識を広げていく必要があると感じました。現在は高齢者を対象として働く事が多く小児との関わりが少なく、全世帯、世代対応の地域包括ケアのイメージが分かりやすく学ぶ事ができました。



③ 滋賀県内の地域共生社会の実現に向けて先進的な取り組み

米原市地域包括医療福祉センターふくしあ 中村 泰之 氏

受講者レポート（抜粋）

・ふくしあでの取り組みは非常に興味深く、チーム連携が上手くいっているように思われました。

・地域包括ケアは現在高齢中心となっているが、小児も合わせた全世帯型の地域包括ケアの実現に向けたふくしあの取り組みの話の中で、地域との様々な機関と連携し、医療ケアが必要な子どもも地域の園に通えるように支援していく際の具体的な方法等の話があり、大変勉強になったと同時に、地域の資源を活かし、連携し、途切れない支援を行っていく際に専門職として何を必要とされているのか理解できた。また、健康づくりや地域づくりにおいて、地域で誰もが身近にスポーツを楽しめる環境をつくっていくことの重要性と専門職として環境や道具の工夫、ルールの工夫等で多職種と連携し関わっていく必要性を感じた。



③ 滋賀県内の地域共生社会の実現に向けて先進的な取り組み

やまなみ工房 山下 完和 氏

受講者レポート（抜粋）

・甲賀圏域で働いているのに、やまなみ工房のことを知りませんでした。自分の価値観だけで判断せず、もっとシンプルに一人の人間として接していくことが新しい発見や気づきに繋がると思います。

・今までのイメージでは、作業所ではすこしでもいいからできる仕事をみつけ、一般社会における就労に近づけることを目指すものかと思っていましたが、一人一人の利用者にあった環境を整え。健やかに穏やかに過ごせる場所を提供することが大事なのだと思った。穏やかに安心して過ごせることが、多くの作品作りにつながるということがよくわかった。やまなみ工房の職員方が1つ1つの作品に敬意をもって大切にしてくられたのでこれだけ世界で認められるようになったのだとよくわかった。



③ 滋賀県内の地域共生社会の実現に向けて先進的な取り組み

カルビー・イートーク株式会社 北村 克家 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・企業としての厳しさの中でどのように支援する必要があるのかを学ぶことができた。少しの工夫で生産性が向上したり、個人が成長できたるすることがある。そのためには個人の特徴を踏まえた提案が必要であることを学ぶことができました。
- ・健常者も色々な職場で働くように、カルビー・イートークのような工場のラインで働くことが合う人もいれば、やまなみ工房のように自由に過ごしながら作品を作ることが合う人もいて、自分で働く場所を選択できるよう、地域の色々な場所に働き口が必要だと思いました。



③ 滋賀県内の地域共生社会の実現に向けて先進的な取り組み

特定非営利法人 YASU ほほえみクラブ 外田 順一 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・“生涯”スポーツの中に“障害”スポーツも含んで、コミュニティ全体でスポーツを通して地域共生を目指す。→スポーツは1つの手段ではあるが、その方面から障害の理解を深め、障害ある方が町中でもあたりまえに見かけられるような社会へと変革していくような意識が必要だと感じた。
- ・YASU ほほえみクラブは知人の所属や前職地域の関係で知っていたが、イベント事業（若鮎駅伝）は知らなかった。イベント開催を通して地域資源の活用や活性化を図ることは、作業療法士会での活動に通じるものを感じた。



4. カリキュラムⅢ

① リハ専門職に求められる多職種連携に必要な能力

吉備国際大学保健医療福祉学部 京極 真 氏

受講者レポート（抜粋）

- ・多職種連携のためのコミュニケーションや考え方が学べて、とても役立ちました。また、新たな興味もできて、今後の仕事に活かせるようにしていきたいです。
- ・他職種連携を行うことで死亡率の減少、個人能力以上の結果を出せるということがデータでも出ていることがわかり、連携の取り組みに対してさらに力を入れる必要があると感じることができました。また、取り組みを行う上での信念対立についても共感でき、現在自身に起きていることに対しても活用できることばかりでした。早速部署内でも講義の内容を話すと皆興味を持って聞いてくれていたので、より深く学んでいこうと思います。



5. カリキュラム Ⅲ・Ⅳ

① リハ専門職に求められる地域評価・診断の基礎(Ⅲ)/地域リハビリテーションマネジメント基礎演習(Ⅳ)

神戸学院大学 備酒 伸彦 氏

受講者レポート (抜粋)

- ・最初の講義の中では、まずしっかり知識を得てから、計画を立て、実行することの大切さがよくわかった。つい、いままでの経験の中で想像してしまいやすいものだと感じた。
- ・次の世代へ、他の職種へ、日ごろなんとなくやっつけてしまっていること(暗黙知)をいかに伝えていくか、できるだけ言語化することを考えていくとよいものと思ったが、難しそう。グループワークでは、皆で意見を出して話し合うという空気をつくり出すのが難しいと思った。テーブルの中央に集まれるようにし、ばらばらに作業をしてはいけないのだと思った。毎日行うミーティングもグループワーク方式にしようと思った”
- ・相手に物事を伝えることの難しさ、今まで行っていた会議等の内容がいかに曖昧であるのかという点を感じました。必要なツールを用意して、参加していくようにしたい。また、部署で発信していくようにしたい。
- ・事業計画を立てる際に、先の道筋まで考えて行えるようにしたい。
- ・対話が進み、グループワークに楽しく取り組むことができました。特性要因図、別の仕事でも使おうと思います。
- ・先生の講義を聞いて、地域リハでのケアで忘れないでおく視点を確認できました。小グループでは、可視化して議論ができたので良かったです。



② 見学実習

(1) びわこ学園野洲医療福祉センター

受講者レポート（抜粋）

- ・ 障害者支援を支えるマンパワー不足や雇用が問題になっていることは、障害者施設において共通する課題であり、離職や労務負担の軽減を図るための役割をセラピストも担う必要性があることを感じる。離職や雇用に関して、身体的以外に精神的疲労等の影響もみられるのか？また離職に至るまでのフォローとして組織的にどのような対応をされているのか知りたいと感じました。
- ・ 障害児者の地域共生を考えるに際し、支援の軸となる家族や関係する施設/人が心身ともに健全で安定し、生活が充実されていることが第一に求められる（支援者支援の必要性がある）と考えます。
- ・ 印象的だったのは施設内に初代学園長岡崎氏の「この子らは何を思っているのだろう」という言葉を最も大きな文字で目に付くところに掲げてあったことでした。施設職員が入所者のケアに追われるなかで、つつい忘れてしまいがちな「本人がどう思っているか、また本人らしさ」を支援できるようにされていると感じました。
- ・ 高齢者を地域で支えようという意識はある程度浸透しているように感じているが、障害者を支える施設・制度がまだまだ不足しているように感じました。施設に入所することができず、短期入所もできず待機されている方が多くおられ、現状ヘルパーステーションなどが支えている現状を知りました。リハビリ職には評価、助言することが求められており、自分は現在高齢者施設で働いていますが、地域共生社会を目指すのであれば、リハビリ職として障害児など普段関わっていない分野の知識も高め、助言できるようにならないといけないと感じました。



② 見学実習

(2) カルビー・イトーク株式会社

受講者レポート（抜粋）

・作業を拝見し、何よりも驚いたのは、箱詰め作業で1箱詰めるのに10数秒で行うスキルの高さである。企業は福祉施設でないのに、効率性と生産性を最大限にあげなければいけない。それは障害者雇用においても同じであり、彼らのできる能力を最大限に引き上げる環境を作り上げてこられたことは、さすがプロであると感じた。

・訪問リハビリにおいてどのように就労支援を行うべきかを考えるきっかけとなった。今回、企業にとってはシンプルに職務が全うできるかどうかことが重要であることがわかった。具体的には「健康状態（毎日通えるかどうか、どの程度の就労時間が可能か）」「作業遂行能力はどうか（各職務内容と本人の能力が合致するか）」「コミュニケーション能力」の三つの能力が大切であり、一般企業となんら変わりなかった。企業側は当然、利益を出す労働者かどうかを就労の判断材料であった。一方、高齢者の就労に関しては一般企業同様、高齢であっても職務が可能かどうかを就労条件としているため、能力と職務内容が合致しない可能性が高いことがわかった。

・障害がある、なしに関わらず、仕事の能力や意思があれば、スキルアップをしながら、誰でも評価される職場だということがわかり、働く方のやる気に繋がるシステムではないかと感じました。

・疑問に思っていた、組織の形や支援、教育システムについて再度ご説明頂き、加えて気軽に質問させていただきよく理解ができました。教育システムや、会社の生産性を上げるためのシステムなど、北村様の言われておりましたが、普通の企業であればあたりまえのことなのかとも思いました。年1回の技能テスト、抜き打ちも兼ねて実施、作業手順書の完備、それ通りにできるかどうかことが大切であること、スキルチェックポイントが見える化し、つながりの中でパフォーマンス測定と、その人毎の業務日誌にて都度のフィードバックを行うことなど一貫して行われている。この会社の目的達成の為に、当たり前に行われることを、リハ職はしっかり意識して考えて日々の業務に取り組んでいるか、また、組織はそこまでの明確なシステムの上で動いているのかを考えました。大きな組織や、対人業務である事が弊害になるのかもしれませんが、必要な検討項目ではないかと考えます。今後、医療、介護保険分野外でも活躍していく事が必須となるリハ職の意識改革に必要な項目と感じました。

② 見学実習

(3) 滋賀障害者職業センター（ジョブスタイルしが）

受講者レポート（抜粋）

・『働く・働きたい』という思いはあっても、働く業種、働く時間、働く場所への移動、働く環境等々と疾患・障害、年齢以外の要件も含めて多くあるために1つの機関や職種だけではサポートしていくことは難しいかと感じました。障害者職業センターは、県内に1か所しかない機関でもあり、また、職業リハビリの専門機関でもあるために保健医療福祉領域に従事するリハ職はその専門性を活用し、連携していく必要がある機関であると感じました。

・病院でリハビリを行っているなかで、復職を支援する必要がある患者さんは少なからずいます。医療の現場では身体機能、ADLへのアプローチはできても、実際の復職の支援については、非常に難しく、できることも限定されます。このような施設とうまく連携していくことにより、患者さんの復職を適切なかたちでより質の高いサービスを提供できるのではないかと思います。

・また、職業相談・職業評価、職業準備支援、ジョブコーチ支援、リワーク支援などの業務を行っておられるが、対象者への支援だけでなく、事業主への支援や支援機関に対するサービスも行っていること、特にジョブコーチ支援のなかの復職に向けた事業主への支援が印象に残りました。障害者の状況を家族でも理解することが難しいことをよく経験します。まして、事業主側が理解することはさらに難しいことだと思います。そのようなケースに、復職にあたり、相談、調整を行い、障害状況の説明、職務の設定等配属に係る助言や、指導方法、関わり方の助言などを行うことはとても有意義であると思いました。

② 見学実習

(4) パレットミル

受講者レポート（抜粋）

・私は過去医療・介護の従業でしたので障害のことはほとんど知らずにこの実習に参加させて頂きましたが、実習前の私の勝手な想像では作業所や就労支援施設は一般の就労の事業とは違い、生産性は度外視で利用者に労働を体験的に行ってもらおうような施設だと考えていました。が今回見学させて頂き、高い賃金でしっかりと一般就労並みの時間働いてもらう、一般の就労への移行や出向など利用者に経済活動の喜びを感じてもらおうことによって自立へのモチベーションを高めていく。これは現在私が関わっている高齢者の活動意欲の向上(例えばお金だけではなく、自立生活動作の獲得に何らかの報酬が与えられるとか・・・)にも何か応用できるのではないかと考えました。

・就労支援施設の見学は3箇所目でしたが、非常に有意義でよい勉強になりました。驚いたのは工賃の高さと品質に対してのスタッフの方の想いです。賃金が低いイメージがありましたが、パレットミルでの報酬額が高い事、それと仕事の品質に驚きました。納期や品質にこだわることで信頼を高め、よりよい仕事ができるように努力されている事が見学を通じて感じる事ができました。

・はじめて、就労 A、B、移行型施設を見学させていただきました。恥ずかしい話ですが、この地域リハ研修で研修を受けるまでは、ほとんど知らず、地域でリハビリ職として働かせていただく中で、関わりがない状態でした。その為、見学で実際を見させていただくと、驚きの連続でした。



② 見学実習

(5) さわらび作業所

受講者レポート（抜粋）

・さわらび作業所では、利用者一人一人のQOLを考えておられた。特に、作業所だけでなく、自宅での生活を考えたいというところに感銘を受けた。その中で、理学療法士として何ができるかを考えると、作業環境管理、健康管理、職員への教育の部分だと感じた。作業管理については、作業方法の効率をあげるために工程や作業時間を考えることであり、作業環境管理では、椅子の高さ、机の高さ、道具の配置などを考えたい。健康管理では、筋骨格系障がい予防として、工作中的作業特性に応じた体操などの提案を行えると考える。職員へは、作業の負担や障がい特性という部分の教育、研修の機会を提供したいと思う。

・地域リハ人材育成研修を通じて、自分にも新たに貢献できる分野を見つけるために、様々なフィールドに出ることが重要であると感じた。大変有意義な場面を見学し多くの学びを得ることができたと思う。見学の機会を与えて頂き感謝いたします。

・研修後に感じたことは、甲賀圏域の中で、どのような障害の方がおられ、その方が利用されている事業所はどのように決まっていくのか、具体的には対象者の評価やニーズにどの程度そくして事業所が決定されているのかが気になりました。あと、例えば、さわらび作業所の利用されている方で、自身の生き方や考えが変わった方は他の事業所との行き来というのは簡単にできるものなのでしょうか？また、圏域内の事業所間でのお互いの事業所の特性や役割の把握などはどのようになっているのかが気になりました。また、職員の方は、どのようなことに達成感や満足感、自己実現を感じておられるのかが知りたくなりました。重度の障害を持っておられる方の生活支援の最前線におられる職員の方だと思うので、そこでの職員の方のモチベーションを維持していくことの大変さも感じました。貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

② 見学実習

(6) 大津市立やまびこ総合支援センター

受講者レポート (抜粋)

・実際に、療育の場面を見学させて頂いて、遊びの中で、その子の能力を伸ばす工夫がたくさんされており、その子の能力を引き出すための椅子の工夫や、室内移動手段の工夫等を多職種が連携して検討し実施することで、生活を通してその子の持つ最大限の能力を引き出すことができることを学びました。また、療育部から卒園し、地域の園に行かれる際への連携や、巡回訪問等の話を聞いて、改めて、日々病院で行っている治療をどうその子の生活に繋げていくかを考えさせられたと同時に、家族、地域の支援者と強いパイプをつくって支援していく必要性を感じました。今回の見学で学んだことを実践の場に活かしていきたいと思います

・今回の見学実習では、先駆的に障がい児支援を行ってこられた大津市の支援の実際に触れ、リハ職の可能性を強く感じました。内藤先生にお話しいただいた中で、巡回相談では通常のリハビリテーション訓練と異なり、「その児の生活を保育士さんと一緒に考える視点が必要」というお話しがとても印象に残っています。私もまだ経験は少ないものの、甲賀市の保健師さんと一緒に対象児の個別相談を実施していく中で、リハ職がしがちな“指導する”という支援よりも“その児が少しでもより良い生活、より良い発達に向えるように一緒に知恵を出す”というような支援の重要性を感じていました。また、内藤先生は支援について「子どもと一緒に、今できることしかできない」とも話されていました。もちろん理想はありますし、より良い支援ができるに越したことはありませんが、できないものはできないので今の環境で、今の知識で、今の能力でできる最大の支援を関係する支援者がそれぞれの専門性から共に考えていくことが大事だと改めて思いました。

・支援センターの理学療法士の仕事としては、相談の仕事が主で個別リハビリという形で介入していないことに驚きました。しかし、個別で運動療法などをするのではなく、その子の生活の中で困っていることを見つけ出し、保育士や保護者などと共に考えアドバイスしていくことで、生活の場所がリハビリとなりその子の能力となっていく事を学び、これは高齢者にも共通することだと感じました。私はデイケアに勤め高齢者の方に関わらせて頂いています。最近は、ご自宅に訪問し自宅での様子を伺う機会が増えてきていますが、訪問して初めて知ることがたくさんありました。特に感じることは、入浴時のまたぎ動作です。「こんな方法で跨いでいたのか！」という方もおられ、今まで自分が個別リハビリで転倒予防のための運動療法をしていたことを恥ずかしく思いました。これから、少しずつ地域やご自宅での生活の場を見ていく事により、自分の中で視点が増えていき、気づくことが増えていく事ができると思います。高齢者と小児は違うようで共通することも多いと思います。まずは、自分の職域である高齢者の生活を見ていけるよう経験を重ね、知識を蓄えていくことで、今後は小児の領域にも関わっていけるようにしていきたいです。

② 見学実習

(7) 就労継続支援事業所 サンサン

受講者レポート（抜粋）

・説明をしてくださった岡本さんが非常に分かりやすい言葉で、そして熱く語っておられたのでどれも興味深い内容でした。メンバーの方への具体的な関わり方も共感できるもの、はっと気づかされるものが多かったです。その中で特に感じたのは、メンバーの方が安心できる場、居心地がよい場を提供するというお話でした。岡本さんが、就労継続B型の枠組みよりも、誰でもが気軽に立ち寄って話が聞いて貰える、話ができる場を作ることに重点をおかれているのも非常に納得しました。私が関わっていた精神障害の方への関わりも結局は、そういう場がどれだけ病院内、その後利用するサービスで提供できるかだと思っています。これを病院の中で実践してきたつもりではありますが、病院は病院で色々な問題があり、なかなかそういう理念だけではやりにくい所もあったと感じています。そういった現場で苦勞をしている作業療法士は多いと思っています。今回、お話をしてくださったことで、これから多くの作業療法士が地域の中で安心できる場をつくれるように、そういったことに興味を持てる人材を養成していくことの大切さを改めて考えました。そのこともあり、また改めて、岡本さんからお話をお聞きすることもあるかとも思いますので、その際はよろしく願いいたします。お忙しい中、丁寧に教えて頂きありがとうございました。

・感じたことは、担当者の説明や普段の様子を伺う中で、利用者に関わることで特に重要なポイントは【教えることはしない】ということ、それは、できていないと捉えられるため、作業や事業所の利用の意欲低下に繋がるからということ、また、作業目標は決まっているが、それをご本人たちにあえて伝えていないことで、ご本人のペースでできるということ。目標を設定すると、ご本人たちは神経質になり、思うように作業が進まないことで精神的な負担となるからなど、精神的な配慮をしつつ身体機能への関わりが必要だと感じた。また、当事業所の目標としては、就労が目標達成ではなく、最終目標は就労や社会参加であり、事業所を利用することが目標になってはいけないという強い理念の下で関わっておられることが印象的であった。

② 見学実習

(8) YASU ほほえみクラブ

受講者レポート（抜粋）

・スポーツを指導される方々がボランティアを活用しての事業展開されていることで高齢ボランティアの活動場所にもなっていると感じました。 団塊世代の方々などは、趣味・特技でスポーツに取り組まれている方も多い世代でもあり、今後、このような世代の方がボランティアとして活躍して頂ける場として『YASU ほほえみクラブ』の事業にマッチしていくのではないかと感じました。

・障害児・者に関わり身構える方もおられるかと思いますが、ボランティア養成の講座などで障害特性や配慮などを学習できる機会を作り、このような企画にリハ職も関与できるなど感じました。利用されている障害児・者の方々へのリハ職の関与も必要性も感じますが、地域リハの観点から考えると事業所のある地域のエンパワーメント力向上や共生への広がり観点からボランティア養成や支援などにリハ職が関与していくのも良いのではと感じました。

・理学療法士や作業療法士に何かできることは何かないかと考えました。本人様のことを一番良く理解されているのはご家族、次に学校の先生やスポーツの指導者だと思うのですが、一応セラピストと呼ばれる職種には障害面や生活面、治療・リハビリ面での専門性がありますので、障害者本人の様々な状態を細かく把握しておられるご家族(特にお母さん)の情報、先生、指導者の情報を統合してご本人様・ご家族進むべき方向を何か提案できるのではないかと考えました(もちろんセラピストも研鑽しなければなりません)。



② 見学実習

(9) NPO 法人ほほハウス

受講者レポート（抜粋）

・以前から富山型のデイサービスに興味があり、実際に今回、見学させて頂いたことでイメージが明確化し、感謝しております。また、職員の方にバイタリティがあり、エネルギッシュであり、フットワークの軽いことも感じられたのが印象深かったです。

私の現在の仕事内容（作業療法士の養成校教員）から、どうしても今後は、“ほほハウス”さんのような熱い理念をもった施設で作業療法士も活躍できるような人材を育成できればと思っています。しかし、“ほほハウス”の職員さんのような、「まずやってみよう！」という行動に踏み込めない人も多く、どのような経験をすればそのように変化していくのかということに関心があり、色々と御質問をさせてもらっていました。どのようにすれば、より活動的な作業療法士が増えるのか、トライ&エラーの精神でやっていける若者を育てられるのかを考えさせられました。

・主婦の視点からいろいろな施設が次々に作られたことが驚きでした。そして、一般の商業施設で買い物のついでに子供支援のセンターに寄れるという発想はいいアイデアだと思います。「抱かれ慣れない子供、抱き慣れない母親がいる」ということが衝撃的でした。買い物ができている、一般の家庭の中に情緒的な発達障害の芽があることは、日常障害がある人を対象にしている職場で過ごしている者としては、なかなか思い至らない、主婦ならではの視点だと思います。ほほハウスの持ち出しにてショッピングセンター内で始めた活動が、子育て支援センターにつながったとのことですが、専門家としてその活動ができるか、と考えると、目の前にある障害に対してアプローチをし、収益や結果を追求する行動習慣が身につけてしまっているのか、あるかどうか、結果を残せるかどうかわからないものに対して行動を起こすことは難しいと思います。誰でもが行き慣れた場所を事業に利用できることは、事業を行うもの、受ける者両方にとってメリットがあることだと思うので、コンビニの2階にフィットネスジムができるように、何か工夫できるとよいと思います。デイサービスや宅老所に関しては、従来型のサービスを提供する形で行われており、全てをサービスする形から利用者が動く施設になることはなかなか難しそうだと思いました。そこには利用者の機能を見極める作業療法士などの専門家のかかわりが必要だと思いました。

② 見学実習

(10) やまなみ工房

受講者レポート（抜粋）

・まず、利用者全員を紹介していただいたことに驚いた。また、利用者もいつもの光景という感じで、見学者が来ても全く驚きもしない。そして、利用者がそれぞれの建物を自由に行き来している様子も驚いた。利用者 83 名に対して職員 16 名で全員を見ており、職員一人一人が利用者一人一人の特性を熟知しているので、どこに行っているかもわかるという。やまなみ工房にはアートの専門家はおらず、利用者の本音に寄り添う、彼らの願いに寄り添い、彼らがしたいことに徹底して寄り添っていることがひしひしと感じられた。利用者も自然体であるが、職員も自然体であることが印象的であった。創作活動に目が向きがちであるが、あくまでそれらは副産物で、彼らが描きたいように、作りたいように作った物が国内外で評価された結果である。一般には、アートとして国内外で評価されれば、そこに着眼してしまいそうであるが、職員はそこに着眼しておらず、彼らが心地よく過ごすためにどうしたらよいかを常に考えていることが素晴らしいと思った。1 枚の絵が 75 万円で売れたり、ボーナスが職員よりも多かったり、就労継続支援 B 型として概念を良い意味で壊してくれる存在であった。「彼らは通っている何十年も全く変わっていない、世の中の見方が変わったただけだ」という山下さんの言葉が印象的だった。日ごろの業務で患者さんのありのままを受け入れられているか、患者さんが生きたい方向に導いてあげられているかを考える良いきっかけになった。

・以前バリバラという NHK の番組で拝見してもともと興味がありました。講義を受けて現場で、空間の雰囲気はどんなことが要因となっているのか感じてみたいと思い、見学を希望しました。見学に行くと、周辺環境調整をしていることや図書館や市役所のカフェなどの話を伺い、地域としてその人自身の自己実現の場所を用意しようとしている雰囲気を感じました。利用者一人ひとりの自己実現や楽しいことを実現する権利が守られているように思いました。僕ら自身も病院や施設で働いているなかで、施設の基準や仕組みに当てはめることや障害・疾患からの問題点を挙げアプローチしています。本当に対象者がしたいことに対しての問題点を挙げられているかがスタッフが全員で前提を持つことが、臨床場面でも本人・家族だけでなくスタッフの目標統一に繋がるのではないかと考えました。



② 見学実習

(11) 滋賀県立むれやま荘

受講者レポート（抜粋）

・大変有意義な見学で、時間があっという間に過ぎてしまったように感じます。

私は、通所リハにて現在業務を行っています。分野や対象者の年齢層に違いはありますが、回復期リハ病棟退院後の社会的なリハ介入は通所リハ領域にも参考になると感じました。見学させていただいた作業提供においても、当通所リハでも取り入れたいと感じる内容があり、興味深く見学することができました。利用者の興味にあわせ、漠然とながらも導入したいと思った経験がある、組み紐、木工、陶芸などの内容が多くありました。また、各種物品の工夫など早速導入を参考にしたい面もあり、作業課題のバリエーションが課題となっていましたので、部署で検討を重ねてみたいと思います。

理学療法士としての移動や外出への支援についてですが、勤務する通所リハでも外出は重要なテーマにおいており、希望調査で行き先を募ったり、リハの集大成として位置づけたり、通所リハでの外出練習の在り方をこれまでも模索してきました。自立支援を目標としながらも利用者側のモチベーションや通所利用目的にも個人差があり、セラピストと利用者にも自立への温度差を感じる場合があります。ケアマネジャーとのリハに関する考えの意見交換にも、相互の専門性を理解し合うことに時間を要します。利用開始段階で十分なアセスメントが必要ではあるものの、利用者数の確保との両立では難しさを感じることも多くあります。質問させていただいたことを参考に、自身の勤務する通所リハ施設の目標や特徴を明確に持って関係各所への発信をしていきたいと思っています。介護保険領域ではサービス業としての側面が際立ち、経営的な視点が強くなっています。自分の思う通所リハの形態を実現していけるよう、今回の見学を活かしていきたいと思っています。

・回復期では生活全般がリハビリテーションという内容はよく耳にしますが、むれやま荘で行っているカリキュラムは回復期を終えて、その後に行う内容として納得ができるものでした。また、最近では高次脳機能障害を持つ方が多くなっているということでしたが、特に生活をしていく中で出てくる問題点から対応を考えることができるので、効果的なのだろうと感じました。

最後の質問の中で、復職について、企業との話し合いを職業センターに依頼しているということでしたが、病院では機能的な回復の変化が大きく能力の変化が大きいため、入院中に復職に向けての訓練を直接的に行うことは少ないように思います。一方、能力的に落ち着いた状態の方だと、目標としている就労の課題に対して直接的に問題の抽出や、対応を考えていくことができ、また、職業センターとの連携により、就労の復帰を進める事で、上手く進めることができるのだと感じました。



② 見学実習

(12) 甲賀圏域障害児・者サービス調整会議

受講者レポート（抜粋）

・それぞれの部会で話し合った内容の報告会と説明を受けていたので、実際に経験するというよりも地域課題や障害児・者の現状を聞かせていただくことになりました。地域課題では病院と地域の考えの違いや就労の支援に困難なケースへの対応が十分にできていないこと、高齢分野との連携が難しいことなどを知ることが出来ました。また、支援事業所からのケース紹介では本人の身体能力・日常生活動作能力だけでなく家族の問題や経済的な問題などで生活が出来ないケースが多くあり、セラピストとしてどのような関わりが出来るのか難しいと感じました。小児分野はほとんど知らない事ばかりであったので、現状を知る良い機会になりました。最後に、このような貴重な実習の機会を与えていただき有難うございました。

・今回見学した障害児・者サービス調整会議は、各部会（精神障害者部会、進路調整部会、重心対策部会、発達支援部会、就労支援部会、他：9部会）と相談支援事業所（7事業所）からの報告の場であり、個別の問題は各部会で協議されて挙げられてくる。そのため、進路調整部会と相談支援事業所で同一ケースについて話し合いが行われている実態があった。この場は、個別の問題解決を行う場というよりも、福祉（事業所）・教育（学校）・行政（甲賀市）が問題を共有し、社会資源など政策調整につながる場であると理解した。このような会議に参加したことがないため、さまざまな要素が絡んだ困難事例や精神疾患などにどのようなアドバイスができるか全く見えないというのが本音であったが、同行して頂いた乙川 OT から、セラピスト視点から逆に質問することや、医療面での意見を投げかけることが、福祉関係者にとって貴重な意見として扱われるというコメントが新たな発見であった。

② 見学実習

(13) 米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」

受講者レポート（抜粋）

- ・ 1つの組織で多数の部署があり、対象の世代が小児から高齢者と幅が広く、リハ職として多様な関わり方が必要だと感じました。リハ職は、医療や介護、地域でのかかわりと従来あった役割に比して幅広くなりつつあると感じていましたが、保育園や小学校など教育現場での関わりがあり、改めて関わり方の広さを感じるとともに、必要なスキルでもあることを再認識できました。
- ・ 児童から高齢者まで、全世代に対して支援を実施されていることに大変驚きました。医療や福祉において、このような施設があればよいと思うことが実際に開設され、運営されており医療福祉サービスにおいて充実していると感じました。発達障害児に対しても、リハ専門職が介入し支援したり、学校の普通学級での学習発達障害児に対して教師を含めてリハ専門職が支援するなど、幅広くリハ専門職が活躍されており、地域共生社会の実現に向けた取り組みがなされていました。今後、地域共生社会の推進を行なう上で大変参考になりました。
- ・ 新しい事業を起こすとき、また新しい事業を委託される時、市区町村の担当者とのコンタクト、および信頼関係の構築・継続がいかに重要かを感じました。お互いに、相手の言い分が理解できていないと、新しい事業は難しい。このようなことは、決して他施設との関係のみでのことではなく、自らの所属施設でも同様のことと感じます。また、本日の研修では、小児領域の取り組みに関しても伝達していただきました。決して利益を出せる事業ではないが、それを広告塔として位置付けるという考えは、今までの自分の発想にはあまりなく、新しい見方として自分の発想に取り入れていきたいと考えました。
- ・ センター外での支援が必要となった際に、他機関との連携にて利用者/家族がサポートされた事例より、施設間の情報提供/情報交換が重要となることを感じる。連携（調整）者間で顔の見えるつながりの必要性から、圏域間における定期的な集会の有用性も感じる。



② 見学実習

(14) ワークステーション虹

受講者レポート（抜粋）

・就労継続支援 B 型の通所施設を初めて見学させていただいた。作業を通して社会とつながり、工賃をもらうことは自己肯定感を高め、主体的に生きる上で施設の果たす役割は大きいと感じた。

また、サロンでは病気のため経験できなかったことを経験できるような取り組みをされていた。様々な家庭事情や個人因子などもあり難しいかもしれないが、ここでの経験が住み慣れた地域での暮らしにもつながるような地域づくりを行政、民間、地域住民が一緒になって進めていけたらと感じた。

近年、行政では農福連携が叫ばれているが、今日現場の声を聞かせてもらおうと、職員に農業の知識がある人はほとんどないことから、進みにくい現状があるとのこと。障害者とその方の支援の専門である作業所職員、そこに農業の知識を豊富に有する高齢者がうまく連携し、6次産業として加工品の販売までつなげれば、より多くの工賃を得ることも可能ではないかと考える。そういったマッチングも行政として行っていけたらと考えた。

・今後精神分野での就労支援や就労後のフォローなど実施していく為には、そして作業療法が職業として成り立つには、何に対して有効であるか、社会においてどのように機能するのかを明確にし、他の職業にはない特徴は何か、固有性をしっかりと出していく必要性を感じた。作業所での作業療法士としては、作業における作業遂行観察を AMPS などの観察技能を用いて行ない、集団としての対人技能の評価はもちろん、その方の自宅での生活支援にも目を向け、長期的な目標、短期的な目標に沿って個別プログラムに応じた作業所生活を支援できると考えた。しかし、滋賀県での作業療法士の活躍の場は多くが医療機関であり地域で活躍する精神分野の OT を知らない。まずは現場の方と連携し、情報交換会から地域課題を見つけていく必要がある。病院から出て幅広い視野を持つことの出来る精神科 OT が 1 人でも多く現れることを期待するとともに、領域に関係なく作業所などにおいて地域で活躍する OT の一人として自分に出来ることは明日から実践していきたいと思った。

③ 地域リハビリテーションマネジメント応用演習 (IV)

神戸学院大学 備酒 伸彦 氏

受講者レポート (抜粋)

- ・本当に様々な視点があり、もっと視野を広げて地域課題を考えていきたいと思いました。そして、その地域課題に対するアプローチとして、まずは発想が大切で、それを地域や現状に合わせて展開していくことの重要性を学びました。
- ・備酒先生の話の中で、サロンに出て来れないひとが問題とおっしゃっておられたことがとても印象に残った。新たな事業を行なうにあたり、そのような人たちがそのような交流の場にいかに参加していただくかということも考えなければならない。また、障がい者が作ったから売れるのではなく、それが最高のもの、最高のサービスでないと売れないという話も印象に残った。今後、地域リハに関わる機会をもつことができれば、このような点に注意していきたい。
- ・同じリハ職でもいろんな視点があり、グループワークの中でも多くの気づきがありました。リハ職でもこれだけいろんな視点があるのであれば、地域共生社会を目指していくのであれば、より多くの職種の間わりが必要だと感じました。
- ・事業計画を立てる上で、やはり理想ばかり求めるのではなく、過去事例をしっかりと調べ、その事例における課題・問題点は何であったのか、その点は追及していく必要性を感じました。事業計画を考える上で理想を優先させてしまっていると反省することが多々ありました。同じようなアイデアをもった方が過去におられたのでは・・・その方はどう行動を起こし、何が障壁であったのか、その問題は現在の制度において実現可能か。地域限定免許の実現に向けて計画を立てていきたいと思えます。
- ・今後、地域に関わる専門職となっていくために、地域リハビリテーションについての知識を増やしていくことや地域との間わりを深めていくような多様な経験をすること、分析する・考える・伝えるなどの力を身に付けることなど、改めて必要なこと(目標)が見つかった研修になりました。
- ・こんな政策が必要なのではないかと真剣に考えたことで、地域リハビリテーションの専門職として関わっていけるところがたくさんあるのではないかなと思うようになり、この経験を生かして色々なところで関わっていききたいと感じました。



第3章 本研修の成果

1. 事業評価

◎企画評価

・ 研修日程について

平成 29 年 9 月 3 日～平成 30 年 3 月 4 日の受講者参加率 → **89.3%**

・ 講師選定の妥当性

第 1 回目～第 7 回目、第 10 回目の受講者アンケート → 理解度平均 **4.12** 点

*理解度 1 理解できなかった～5 よく理解できた

・ 見学実習地選定の妥当性

第 8 回目～第 9 回目（見学実習）の受講者アンケート → 理解度平均 **4.27** 点

*理解度 1 理解できなかった～5 よく理解できた

・ プログラム企画の構成について

○当研修の趣旨説明についてはカリキュラム外で実施

○制度や地域共生社会についての講義の理解度は他に比して低い。制度についてもう少し丁寧に知りたいという要望もあり。

・ 受講者受講動機との合致

○全 10 回を通じての満足度 大変よかった(78%)、よかった (22%)

○受講者動機 補足資料参照

◎実施評価

・ 研修回数

10回

・ 受講者数・修了者数

受講者数 **42**名 (のべ参加者数 386名) (定員 15名)

修了者数 **35**名 (修了率 83.3%)

・ 参加者の満足度

第1回目～第7回目、第10回目の受講者アンケート → 満足度平均 **4.30**点

第8回目～第9回目(見学実習)の受講者アンケート → 満足度平均 **4.48**点

*満足度 1 不満～5 大変満足

・ 研修環境に対する反応

受講者アンケートなどには記載がなかった

◎結果評価

カリキュラム 番号	教育目標	参考
I	地域 / 地域共生社会とは何か考えを述べることができる。	事前・事後課題
	様々なライフサイクルの中で自助・共助・公助が絡み合うことの大切さを説明することができる。	事後課題
	地域共生社会の実現に求められているリハ職像を述べるができる。	事前・事後課題
II	様々な制度や社会情勢の中で、リハ専門職が活躍していることを知っている。	研修理解度
	滋賀県の障害福祉の仕組み(理念・法律・サービス・地域での動き)について概要を知っている	研修理解度
	地域共生社会の実現に向けて活動する障害福祉の取り組みについて知っている	事前・事後課題
III	地域リハビリテーションを支える支援者の専門性や価値観を説明できる	
	リハ専門職の専門性を他の支援者に理解できるように説明することができる	事前課題
	自らが勤める地域にどのような地域資源があるか調べ、述べるができる	事前課題
	地域診断に必要な能力を述べるができる	研修理解度
IV	包括的に“人”や“地域”を見る視点を再確認することができる	事後課題
	地域での課題を解決するための方策を立案できる	第10回プレゼンテーション
	これから地域でリハ専門職に求められる能力を述べ、自らのこれからの行動立案が行える	事後課題

2. 考察

○当研修会に滋賀県内から42名の受講希望者がいたことは、地域づくりや地域リハビリテーションに関心のあるリハビリテーション専門職が予想以上に存在すると考えられる。

○地域リハビリテーションに興味関心がある受講者でさえも、障害福祉領域の言葉（自立支援協議会や計画相談支援など）には馴染みが低い言葉であった。これはリハビリテーション専門職が医療や介護領域の機関や事業所に所属している割合が高いことが原因のひとつであると考えられる。ただし、医療・介護領域においても障害福祉領域の支援やサービスと連携して関わる機会も存在することから、障害福祉領域の知識を持つことは現職場での患者や利用者への関わりに寄与することが考えられる。

○政策・制度についての受講者講義理解度・満足度は全体的に低かった。リハビリテーション専門職は個人に働きかけることが多く、制度や政策などの“仕組み”について考える機会は少ないことが予想される。ただし、リハビリテーション専門職が地域づくりや地域リハビリテーションを効果的に推進するためには“仕組み”についての理解を深めることや他者・他職種と“仕組み”を構築する力も求められることが考えられるため、“仕組み”についての知識や情報を継続的に得ること、解釈する力をつける機会が必要である。

○見学実習についての受講者理解度および満足度の平均は講義・GW形式よりも高く、現場を見ること、現場の支援者や当事者と話すことは、理解度および満足度に影響することが考えられる。限られた対象者や職種との関わりが中心にあるリハビリテーション専門職にとって見学実習は、他者・異職種との関わりの中で自らの専門性や地域リハビリテーションの推進について考える効果的な機会となる可能性がある。

○受講者アンケートの中には、地域リハビリテーションの推進への興味をもつリハビリテーション専門職が自分以外にもいることを知ったことについて記載があった。これまで、地域リハビリテーションや地域づくりに興味関心のあるリハビリテーション専門職が一同に会する機会は少なく、本研修が同じ意思を持つリハビリテーション専門職のネットワーク化に寄与したことが考えられた。今後、継続してネットワークの維持・強化および積極的な情報共有を行っていく必要がある。

○受講者の中には後輩育成や学生指導に繋げることを考えているものもあり、所属する施設や機関への波及も予想される。当事業の継続的な実施が、地域リハビリテーションに理解を示すリハビリテーション専門職やその機関の増加に繋がることが考えられた。

○当センターは、修了した者がどのように行動し、地域リハビリテーションの推進に寄与していくのか、また彼らが寄与するにあたるバイアス分析及び、より効果的に寄与するために必要なことが何であるのかという点については今後も継続していく必要がある。

○地域の多様な主体のひとつとしてリハビリテーション専門職は、住民ひとりひとりの暮らしと生きがい、地域を住民とともに作っていく社会の実現に必要な職種であると考えている。今回の研修を通じて、勤務する施設や機関で関わる住民（患者や利用者）に対して暮らしと生きがいとともに考え効果的な関わりができることに加え、医療・介護領域のみなら

ず、障害福祉領域や産業保健などの領域に寄与すること、身近な地域での地域づくりへの関与が促進されることを期待したい。

3. 補足資料

受講者の受講動機（全文）

- ・地域リハマネジメントの手法を学び、第三者への説得ができるようなかかわりを作っていきたいと考えております。今後はより地域へ展開できるように地域リハビリテーションの NPO 法人の設立を目指します。
- ・単純に地域リハビリテーションについてもっと深く知りたいと思ったことが動機です。その理由として現在介護事業所に勤務し、また、地域ブロックの他職種連携活動に参加させていただいていますが、事業所、ブロック、職種間、個人レベルでも認識差がかなりあると感じています。また、趣旨にあるようにセラピストの専門性はほぼ活かされていないとも思います。私も含めて方向性や正解がわからないことが本音なのかもしれません。この研修会を受講させていただけるのであれば、まずセラピストができることまたセラピストしかできないことの役割の重要性を学び、今後の連携活動に役立てていきたいと考えております。
- ・共生社会の仕組み、仕掛けなどのかかわりに携わりたい。障がい児から関わり、生活・将来への人生設計など把握したい。
- ・湖東圏域における地域リハビリテーションを円滑に進めるために、必要な知識の習得を行い、途切れない情報共有の実現や様々な相談に対応できるようにしていきたいと考えています。
- ・医療・介護保険としてのサービスだけではなく、地域の人たちとともにある理学療法士でありたいと日々思っております。もう一度地域リハビリテーションについて、しっかりと学び、今まで行ってきたことを振り返りたいと考えています。その上で、地域の方に対して私ができることを考え意欲的に活動していきたいと考えています。
- ・地域の中で作業療法士が求められていることを学びたい。地域における作業療法士の可能性を探っていききたい。地域を知り、地域貢献に何が必要かを知りたい。
- ・地域リハのシステムについての考え方・方法を学び、特に地域にはたらく ST は少ないので、どのように ST の地域リハシステムを構築すればよいかを考えていきたい。
- ・当市における地域リハビリテーションを展開していく上で、必要な知識や先進的な取り組みを学び、実践に活かしていきたいため。
- ・訪問リハでの業務経験があり、その際から地域リハに興味を持っています。今後、リハ職として必要とされる知識や考え方を学び、滋賀県、特に湖南地域の地域リハの発展に携わりたい。
- ・高齢者や障害児者、児童などのリハビリテーション職に関わる職域は幅広くなっています。様々な分野で理学療法士の専門性を発揮できるように、コミュニケーション能力や問題解決能力などの知識や技術を学び、対象者の課題・問題解決をはかっていきたいと考えております。
- ・住み慣れた地域で暮らす支援を考える際の必要な資源の理解・制度の把握、活用の手順、また連携の方法を学び、得たいと考えます。そして今後地域での医療・福祉の場において、身近に身体状況や家庭環境、ライフステージの変化などを将来まで見据えた支援にいたるまで総合的にアセスメントし、継続して安定した生活が構築されるよう、日々の介入に活かしていきたい。
- ・現在、勤務するデイリハセンターでの業務を行う中で、地域リハビリテーションに関する知識の向上、蓄積が必要であると強く感じていました。自身の働く部署が地域の中で利用者に貢献できる施設に成長していくこと、さらに部署・病院、自身がより地域の安全・安心に活かせる能力を身に着けることにつながることを期待して受講を希望させていただきました。また、同じ志をもつほかの専門職との交流の場になることを有意義と思っています。

- ・滋賀県の障害福祉における政策内容やリハビリテーション専門職種に求められていることを知り、自らが生活・就労している地域の特色を把握したい。また、学んだ政策や地域の特色を踏まえたくらうで政策内容やリハビリテーション専門職、リハビリテーションをする人同士を繋ぐ一端を担っていきたい。
- ・他の都市や地域の施策を学び、私の働いている施設や地域に取り入れたいと考えています。特にディケアや PT に求められている役割をもっとつきつめて考え、必要なことと不必要なことの線引きをできるようにしていきたいと考えております。
- ・現在の仕事を通じて多くの他職種と連携し、生活のためのとりくみを進めてきたが、役割づくり、まちづくりにとっては今の形、今の考え方では限界を感じている。地域共生・就労・産業など様々な視点での話を聞き、それを取り入れることでこの地域がよりよくできるように学びたいと思っております。
- ・リハビリ専門職種として、地域から何を求められているのかを学び、幅広い視点で利用者と向き合えるように活かしていきたいと思っております。
- ・平成 27 年度より滋賀県 PT 士会、地域包括ケアシステム推進委員として導入研修、地域ケア会議など研修をさせていただいております。今回、この研修を受講しより地域リハについて学びたいと思い申し込みさせていただきました。
- ・障害児支援のために何が必要かどんな方法があるのか、またその情報の得方について学びたい
- ・リハビリテーションに関する地域資源の現状を知り、またそこから見えてくる地域の中での問題点について考え、それに対してどのようなことが自分の立場として提供できるかを検討したいと思ったため
- ・地域リハビリテーションについて全般を学び、今後の病院リハビリテーション部の運営・医療・介護の連携について活かしていきたい。
- ・私の住む地域の自治会には若者が少なく、団塊の世代が中心での自治会活動が行われています。また、高齢化により自治会の活動が縮小している地域もあると聞いております。これから拡大する中で、在宅での暮らしには、リハ職の力が必要であると考えています。しかし、具体的な問題もわからず、またどのように貢献していけばよいかかわからない状態です。今回の研修では、リハ職に対し、何を求められており、何ができるのか学びたいです。
- ・超高齢化社会に向けて私たちリハ職が何を考え、何ができ、県民市民の皆様が何が還元できるのか。そのためには知識と行動力、具体的な目標が必要と感じているために研修に参加したい。
- ・理学療法士として地域リハビリテーションを行っていくスキルを学び、現在の職場や地域での仕事に役立てていきたい。
- ・滋賀県作業療法士会の地域活動局の仕事をしており、滋賀県 7 圏域の地域に必要とされる作業療法士の人材育成や人材確保、各地域への作業療法の啓発活動、地域包括ケアに基づく活動を行っています。病院のある圏域での活動のみならず、今後滋賀県を視野に入れた活動を期待されており、本研修を通じて地域に必要な人材に必要な知識・技術の獲得をともにさらなるネットワーク構築を考えております。具体的には地域リハを推進するために必要な知識、技術を各圏域に伝達する役割、そして東近江圏域における地域包括ケア会議への参加、障がい者の自動車運転、高次脳機能障害者等の就労支援や自立支援へと繋がればと考えております。
- ・地域リハを学生に教育していく立場として、その考え方、理論を学び、学生教育に活かす。また、地域リハは理論と実践との乖離が生じていると考えており、その越境問題を解決する糸口を掴みたい。
- ・こども・教育領域や地域共生社会に向けた先進的な取り組みなどを学び今後の市の地域リハを考える上で役立てていきたい
- ・地域リハビリテーションの重要性が取り上げられている昨今ですが、急性期病院である当院ができること、当院のリハビリテーション室が取り組んでいかなければいけないことを学び、高齢化率 30%を超える地域リハは行わなければいけないことです。地域の中でできる基礎を学んでいきたい。
- ・介護老人保健施設が地域で果たすべき役割は大きいと思うが、入所・短期入所、通所リハ・訪問リハという既成のサ

ービスにとどまらず、地域とどのようにつながり、参加の場を作っていくかなど地域包括ケアシステム構築の一翼を担うための機会にしたい。

・地域の方にリハビリを活用していただけてないと感じています。今回の研修会を通じて地域にどのようにリハビリを提供するのか、その手段・方法を身につけたいと考えています。

・保健・福祉・医療そして地域の現場で従事させていただいた中で疾病・障害の有無に関係なく子どもから高齢者の方々がそれぞれのライフステージにおいてその人らしく役割や興味をもって滋賀県で暮らし続けていけるための支援をさせていただきたいと考えています。今回の研修を通じて、昨今の地域事情や知見を学ばせていただき、臨床での個から集団（コミュニティ）へのアプローチを展開していき、人づくり・地域づくりの一翼を担うことができると考えています。

・小児分野で仕事を行う中で、地域・園・学校・就労等の各関係機関と連携を密にとっていく必要性を感じているが、私自身地域と情報共有ができていないので、今回参加し、県内の各機関の役割を理解し、小児分野に関わるリハ職として地域の中でどのような役割を求められているのかについて学びたい。

・全世代・多分野を包括的に捕らえて、地域リハを展開できるようになりたいと思っています。

・リハビリだけではなく、地域包括ケアに携わるものとして、他職種の連携や地域ニーズに対応できる関わりに取り組めるよう、知識スキルの向上を目的として受講しました。しいては、リハ職の強みをいかに落とし込むのかという点についても学びたい。

・地域リハビリテーションとは何か、地域共生社会の実現に向けてどのような取り組みがあるのかということを知り、今後は通所リハの利用者様が地域と関わることでできるきっかけづくりや地域でできる取り組みについて何ができるのか考えていきたいと思っています。

・地域共生社会を実現していく上で、必要なネットワーク構築技術やコーディネート能力などの必要なスキルについて学び、地域包括ケアシステムを構築していく上での礎としたい

・1年目から老人介護保健施設で勤務させていただいていますが、地域リハ・制度の知識が不十分であると自覚しています。現状、自分が関わることを十分に理解したうえで、他職種にリハからの視点などを伝えられるようになりたいと考えています。

・通所・入所でのリハビリ・地域サロンへの関わりをする中で、リハ専門職として地域に貢献できるように地域共生社会の知識・連携に必要な能力を得たいと思いました。

・臨床経験を通じて、同じ市内、地域間での道路状況や近隣住民構成、自治会によっても取り組みの差があり、一人一人の生活圏域の違いによる参加の制限があることを感じました。介護保険サービスだけではなく、自治会・コミュニティといった主体的な生活の獲得のために、リハ職として地域を含めた、患者・利用者様のみかたと地域住民を巻き込んだ具体的な取り組みを学び、サロンや自治会等の派遣事業や通所リハ内での生活行為リハの実地指導に活かしていきたいです。

・色々な困難さをもって生活している方々が、自分が生まれ育った土地で少しでも暮らしやすくなるように、継続した支援ができる仕組み作りが必要と考えます。

・地域の人々を対象としたデイケアで働く中で、高齢者やその家族が住み慣れた地域の中で安心して生活ができるように、今後どのような活動ができるのか学びたい。

・通所リハという施設で働かせていただき、高齢者の方々の生活を知る機会が増え、色々な不安や不自由さを抱えて生活しておられることを知り、安心した生活が送れるにはどのような支援が必要で、どのような既存の支援があるのか知識を深め、地域の方々に貢献したい。

受講者への事前アンケート

(a) 事前課題 1・2

目的：地域リハビリテーションの旗振り役を担うために必要な知識（用語や自治体の状況など）について、受講者自身の現在の認識を確認することとする。

方法：E-mail にてアンケート用紙を配布し、E-mail にて回収する。

期限：課題 1 平成 29 年 9 月 3 日（日）13:00

課題 2 平成 29 年 10 月 31 日（火）18:00

内容：

課題 1

①医療・保健・福祉に関する 19 用語の認知度

19 の用語を 4 件法（1.よく知っている 2.知っている 3.名前は聞いたことがある 4.知らない）で回答いただいた。

1.→1 点、2.→2 点、3.→3 点、4.→4 点として集計した。

②地域リハビリテーションに関する考え（自由記載） 7 題

（1）あなたがもつ専門性（各職種）をその専門性を知らない大人に説明するとすれば、どのような説明を行いますか。（200 字以内）

（2）あなたのもつ専門性（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）は、地域にどのような貢献ができると考えていますか。（200 字以内）

（3）あなたは、他の専門職種と関わる際にどのようなことに気をつけながら関わるようにしていますか。

（4）あなたにとって「地域」とはどのようなものを指しますか。（100 字以内）

（5）あなたにとって「地域リハビリテーション」の定義とはどのようなことですか。（100 字以内）

（6）あなたが勤める職場がある所在市町において課題であると思うことについて述べてください。

（7）あなた自身は今後どのように地域に貢献できると考えていますか

課題 2

（1）勤務地市町の人口や世帯数、自治会数など**想定数を記載**

（2）勤務地市町の人口や世帯数、自治会数などの**実数（調べた数値）を記載**

・人口 ・身体障害者手帳所持者数 ・療育手帳所持者数 ・精神障害者保健福祉手帳所持者数
・特定疾患医療受給者証交付数 ・小児慢性特定疾患医療受診券交付数 ・老年（65 歳以上）人口
・生産年齢人口（15 歳～64 歳） ・年少人口（0 歳～14 歳） ・出生数 ・死亡数 ・転入数 ・転出数
・世帯数 ・公民館数 ・自治会数 ・小学校数 ・中学校数 ・高校数 ・大学・短期大学数 ・児童館数
・医療機関（小児科）数 ・地域包括支援センター数 ・認知症サポーター数 ・グループホーム数
・訪問看護ステーション数 ・通所リハビリテーション事業所数 ・就労継続 B 型支援事業所数

結果：42名の回答（回収率 100.0%）

①19の用語の認知度

・よく知っている1点、知っている2点、名前は聞いたことがある3点、知らない4点とし、すべての回答者の点数を合算し、**全受講者の各項目平均値**を算出した。

（「よく知っている」と回答した項目の点数ほど低い点数になる。）

PT	1.048	よく知っている言葉
OT	1.167	
ST	1.190	
地域包括ケアシステム	1.833	
地域包括支援センター	1.905	
地域ケア会議	1.952	
自助・共助・公助	2.000	聞いたことはある言葉
介護予防・日常生活	2.095	
認知症サポーター	2.286	
地域共生社会	2.634	
障害者法定雇用率	2.881	
子ども食堂	2.881	
難病指定医	3.048	あまり知らない言葉
就労継続支援事業	3.190	
小児慢性特性疾患	3.262	
計画相談支援	3.341	
自立支援協議会	3.476	
基幹相談支援事業所	3.524	
特例子会社	3.667	

- 「地域包括ケアシステム」や「地域ケア会議」などの介護保険領域に関する用語に比して、「就労継続支援事業」や「特例子会社」などの障害福祉にかかる用語はあまり知られていない。

②地域リハビリテーションに関する考え（自由記載を抜粋）

（設問（1）、（3）、（4）、（5））

（1）あなたがもつ専門性（各職種）をその専門性を知らない大人に説明するとすれば、どのような説明を行いますか。（200字以内）

・科学的根拠に基づいた運動療法を中心にした施術を行い、その対象者や家族、周囲の方の望む生活に戻れるように支援する職種です。（3年目PT）

・リハビリテーションの職種の一つです。PTは歩く、座る、などを獲得するために基礎を作ります。OTはそこからお風呂に入るには、料理を作るにはなど、応用的なことをしていきます。（7年目OT）

・病気や障害などで生活に不自由な方が再びその人らしい生活が送れるよう支援するというリハビリテーションの理念を達成するための職種のひとつで、理学療法は治療的マッサージや運動療法、歩行補装具の選定や手すりなどの住宅環境を整えることで、身体機能や日常生活を改善し、活動参加を支援していく職種です。（14年目PT）

・対象者（患者様、利用者様、地域の方等）に、自分らしく生活してもらうために、活動や役割に着目して支援する専門職です。例えば、脳梗塞で麻痺の後遺症があっても、『家族のために食事づくりをしたい』と思う方に対して、麻痺等の体の状態の確認、調理に関わる場所や道具の工夫、協力してもらえるサービス等のアドバイスをします。（15年目OT）

・動作（寝返り・起き上がり・立ち上がり・歩く）がなぜ行いにくいのか考えて、評価し、その原因を探って、解決していく。そして動作が行えるようになることで、それぞれのやりたいことができるようになり、いきいきと生活できるようになる。そのためのパートナーです。（25年目PT）

（3）あなたは、他の専門職種と関わる際にどのようなことに気をつけながら関わるようにしていますか。

・相手の職種の専門性を考え、傾聴する部分と、私たちの専門性を活かした話が出来る部分を分けてコミュニケーションをとること。（20年目PT）

・自分の意見を無理に押し通すことのないように、前に出ないように気をつけています。（10年目OT）

・相手の専門性を尊重し、理解した上で、自分の専門的な視点で相手に理解してもらえる言葉で話すことを心がけている。（21年目OT）

（4）あなたにとって「地域」とはどのようなものを指しますか。（100字以内）

・所属する場所（社会・学校・病院など）と自宅の中間の位置づけ、または両者をつなぐもの。（3年目PT）

・住んでいる自治会や物理的な広さに限らず共通の好みや活動を通じたコミュニティ、気軽に挨拶ができる顔なじみや自分の話ができる知り合い。（10年目PT）

・「地域＝私たちが生活の場」家族や友人などと仲良く自分らしく暮らせる場。（24年目OT）

（5）あなたにとって「地域リハビリテーション」の定義とはどのようなことですか。（100字以内）

・地域で生き活きと暮らしていけるようにすること。自宅の中だけでなく、地域社会に参加していけるよう促していく。また、地域の方々と支え合うこと。（11年目PT）

・病気や障害などの有無に関係なく、子供から高齢者まですべての人が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、リハビリテーションの視点から支援を行う活動のすべて。（14年目PT）

・生活に障害を持つ人が、その人らしく生活できるように、その人に関係する人たちが協力して援助、問題解決すること
(35 年目 OT)

・その人が生活していた場所で、病気後も、住み慣れた地域で、その人らしい生活ができるように整えてあげること。また、それらを様々な専門職が協力して支えてあげること。(13 年目 ST)

課題 2

受講者が記載した想定数/実数 の数値の全受講者平均値と標準偏差、中央値 （すべて記入している項目のみを挙げた）

例：Aさんは自分の勤務地がある自治体の人口は 2 万人と考えていた。実際は 3 万人であった。→
 $20,000/30,000 \times 100 = 66.7$ 【想定数と実数が完全に一致していれば = 100.0 となる】

	列 1	平均値	中央値	標準偏差	回答数
	転出数	38.2	17.5	41.4	42
	転入数	77.7	16.7	253.7	42
	世帯数	81.1	86.1	45.9	42
一致率が高い項目	生産年齢人口	89.7	94.0	46.6	42
	身体障害者手帳所持者数	93.5	68.0	107.8	42
	人口	98.9	98.2	32.6	42
	老年（65 歳以上）人口	102.7	93.6	44.9	42
	年少人口	104.5	93.0	64.9	42
	訪問看護ステーション数	113.6	100.0	276.7	42
	小学校数	123.7	96.2	93.8	42
	グループホーム数	125.3	83.3	189.0	42
	出生数	136.5	91.2	191.8	42
	中学校数	139.2	100.0	132.1	42
	死亡数	158.5	86.6	220.8	42
	地域包括支援センター数	443.9	100.0	1836.6	42

第 10 回を通じての事後アンケート

目的：全 10 回の研修を終え、受講者の変化や理解度を測定するために実施する

方法：E-mail にてアンケート用紙を配布し、E-mail にて回収する。

期限：平成 30 年 3 月 11 日（日）23：59

対象：修了者 35 名

内容：

①医療・保健・福祉に関する 19 用語の認知度

（4 件法 1.よく知っている 2.知っている 3.名前は聞いたことがある 4.知らない）

②地域リハビリテーションに関する考え（自由記載） 4 題

（1）あなたがもつ専門性（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）は地域にどのような貢献ができると考えていますか。（200 字以内）

（2）あなたは、今後、他の専門職種と関わる際に、どのようなことに気をつけながら関わるようにしますか。

（3）あなたにとって「地域」はどのようなものを指しますか。（100 字以内）

（4）あなたにとって「地域リハビリテーション」はどのようなものを指しますか。

③研修全体を通じての印象・研修を受講し、実践していること

④研修で学んだことなど

⑤感想

結果：31名の回答（回収率 85.7%） 平成 30 年 3 月 12 日現在

①19 の用語の認知度

・よく知っている 1 点、知っている 2 点、名前は聞いたことがある 3 点、知らない 4 点とし、すべての回答者の点数を合算し、各項目平均値を算出した。

項目	事後課題 N=31	事前課題 N=42	事後/事前	変化率
PT	1.032	1.048	0.99	-0.01
OT	1.065	1.167	0.91	-0.09
ST	1.161	1.190	0.98	-0.02
地域共生社会	1.452	2.634	0.55	-0.45
地域包括ケアシステム	1.533	1.833	0.84	-0.16
地域ケア会議	1.581	1.952	0.81	-0.19
地域包括支援センター	1.581	1.905	0.83	-0.17
自助・共助・公助	1.667	2.000	0.83	-0.17
就労継続支援事業	1.767	3.190	0.55	-0.45
介護予防・日常生活	1.767	2.095	0.84	-0.16
こども食堂	1.806	2.881	0.63	-0.37
認知症サポーター	1.871	2.286	0.82	-0.18
障害者法定雇用率	2.129	2.881	0.74	-0.26
自立支援協議会	2.194	3.476	0.63	-0.37
特例子会社	2.323	3.667	0.63	-0.37
難病指定医	2.419	3.048	0.79	-0.21
小児慢性特性疾患	2.516	3.262	0.77	-0.23
計画相談支援	2.613	3.341	0.78	-0.22
基幹相談支援事業所	2.806	3.524	0.80	-0.20

○全項目で認知度は向上している。

○特に、【就労継続支援事業】や【地域共生社会】、【こども食堂】、【自立支援協議会】、【特例子会社】は大きく向上している。

②地域リハビリテーションに関する考え（自由記載） 4題

(1) あなたがもつ専門性（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）は地域にどのような貢献ができると考えていますか。（200字以内）（抜粋）

・その地域に暮らす子供から高齢者まで、健常者と障害者を分けることなく、共に生活していくことができる環境や制度、支援などを作るために、身体・精神面のアセスメントや活動・参加へつながるための配慮や支援が必要な部分を評価できることや、他に関わっておられる方にも説明できることなど、専門的な知識や経験から、誰もが共に暮らしていける地域づくりに貢献できるのではないかと考えます。（6年目 PT）

・対象者、利用者に対して、医学的知識を用いて評価することができる。また、社会資源を有効に利用できる、対象者の生活の質を上げる為に繋げる、マネジメントすることができる（20年目 OT）

・私は医療・保健分野（特に医療分野）を中心とした知識・技術ではあるものの、市町が抱えている問題の中で対象者の社会参加につながるようなこと（例えば就労支援やその人の地域での役割の再構築等）であれば、何か貢献できると考えています。（6年目 OT）

・自立支援、活動と参加に資する活動を個々人に対してサービスを提供するだけでなく、地域の中の一つの資源として、地域共生社会の実現に向けて他職種と協働することでより大きな貢献ができる。専門性を発揮したアイデアやアセスメントを通して自立支援をし、地域共生社会の実現に寄与することができる。（21年目 OT）

(2) あなたは、今後、他の専門職種と関わる際に、どのようなことに気をつけながら関わるようにしますか。（抜粋）

	事前課題	事後課題
6年目 PT	分かりやすい言葉で理解してもらえるように伝える。他の専門職の意見を聞き、違う視点の見方や考え方を理解するようにする。出来るだけ多くの情報が共有できるような関係づくりをする。	同じ立場で考えられるように、相手(他の専門職)の話聞いて、違う視点で見ている方の思いや考えを理解できるように努力し、 <u>自分の思いや考えもちゃんと伝わり、理解されているかを意識しながら説明</u> するように気を付け、できるだけ多くの情報が共有できるようにする。
10年目 OT	他職種から捉える視点と、自身が捉える視点の違いや共通点を考えながら、最適な解決策を導けるように意識して関わっています。	自分たちの専門性を前面に出して対応するのではなく、 <u>いろいろな職種の中の一つとして、考えを伝えることや、課題に対して、一緒に考える</u> ということを前提に関わっていくと考えています。

(3) あなたにとって「地域」はどのようなものを指しますか。(100字以内) (抜粋)

	事前課題	事後課題
15年目OT	<ul style="list-style-type: none"> ・生活する上での集団の単位の一つ。 ・何らかの共通点を持った集合体。 ・住み慣れた馴染み、愛着のあるところ。 	<p>馴染みのある場所、共通する事柄（祭り、スポーツチーム、課題等）を持つ集合体。</p>
11年目PT	<p>市町村、自治体 ご近所さんなどの同じ地域で暮らしている人々</p>	<p>住んでいる市町村 自分らしく人生の最後まで自宅で暮らしていける環境</p>
14年目PT	<p>その人が生活している場、ある一定の範囲。</p>	<p>その人が生活している場であり、また一定の範囲に住む人や建物、道路や公共交通機関、インフォーマルも含む社会資源等をあわせたもの。</p>

(4) あなたにとって「地域リハビリテーション」はどのようなものを指しますか。(抜粋)

	事前課題	事後課題
17年目OT	<p>子ども～高齢者まで精神疾患など問わず「我がごと・丸ごと」の思想で何ができるかを行動で示すこと「地域共生」「共助」「自助」「互助」「公助」のキーワードにリハビリを展開すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生計 育計 学計 家計 祭計 死計 を考えリハビリを図ること。 ・部落の掃除、祭りごと、PTAなどにも参加して、地域の発信を常にキャッチすること。 ・市民活動への参加、自分自身の道徳心を維持する事をめざす。
6年目PT	<p>暮らしている人や場所を中心とした、周囲の人や場所、環境という地域に対して、関わりが持てるように繋げていく、あるいは関わりを持っている中で、支えあい・見守り・協力し、行っていくリハビリテーション。</p>	<p>地域で子供から高齢者まで誰もが共に暮らしていくことができるように、身体機能面に対してのアプローチをしたり、日常生活・趣味活動・地域参加ができるだけの動作能力を身につけたりするだけではなく、その人らしく生きるために困難な部分を必要な支援が受けられる環境や制度などを整える手助けになったり、年齢や障害の有無に関わらず、健康増進・介護予防の分野においての知識をアドバイスができたりするなど、地域で安心して暮らすために役に立つ身近にある手段。</p>
10年目PT	<p>年齢、障害の有無に係わらずお互いに関心を持ち、苦手なことに気軽に手を貸すことができる、気軽に手伝いを頼める。そのために、専門職が手伝い方や環境的な調整の仕方や考え方を指導することができる仕組みづくり。</p>	<p>対象者だけでなく周囲の人や環境といった価値観もふくめてちょうどよくあわせるようなもの。</p>

③研修全体を通じての印象・研修を受講し、実践していること

・病院勤務ですのですぐに活かしていくことは、難しいように思いますが、退院や入院される方々の今後を考えていく上で、考えていく幅が広がっていくように思います。

・就労移行支援事業所を2か所見学させていただき、自分の中での就労支援の選択肢が増え、ビジョンが描けるようになった。働きたい人はたくさんおられるが、みなさん具体的なイメージがわからないので諦めてしまわれていることが多い。支援者が具体的な青写真を見せることができれば、結果も変わってくるのではないかと思う。現在、通所リハご利用中の40代と50代の方2名に対して、CMと協働して具体的に就労移行支援につなげることを目標に支援している。また、現職復帰をすることを目的に利用開始される方も出てきた。通所リハのあり方もどんどん変わっていくのかもしれないと感じている。

・障害児のリハビリニーズに対して、訪問看護リハで対応できるようにしています。また、グループで考えていたプロジェクトに関しては、すぐに実行はできなくても、目的達成のために協働して行えることをメンバーで話しています。プロジェクトを同じ地域のメンバーで話し合えるのはとても有意義な時間でした。今後も、メンバーでの交流を継続し、地域に対して行えることを一緒にできたらと考えています。

・現在の通所リハで他の専門職との関わりの中で、利用者受付の際には、理学療法に関する知識を提供することだけでなく、まずは相手の想いを知ることを第一にして連携をとることを心掛けています。

・部門内での事業案や会議等でも、学んだ企画案の提案の仕方を意識しています。

・自治会の福祉推進委員会の設置へ計画中で、年度明けには古い農作業所を利用したフリースペースの開設を目標に、昔写真展を開催予定。自治会の高齢者も何かしたいと意見が聞かれるようになっている。

・受講前から地域の廃校になった小学校の体育館を毎週金曜日に開放。開催当初は僕が参加したかったため夕方しか開放していなかったが、児童の帰宅時間に合わせて開放時間を変更。参加人数は増えている様子。展開について検討。

④感想

・高島市では、まず来年度から数年の計画で、小児領域の課題（セラピストの人材育成、地域の小児領域にセラピストが介入するシステムづくり）に対して、行政や医師会とも連携しながら取り組んでいきます。また、同時進行で、高齢社会の課題（介護予防、引きこもり、認知症など）に対しても、社協や行政と連携して、住民主体のコミュニティの形成に取り組んでいこうと思います。

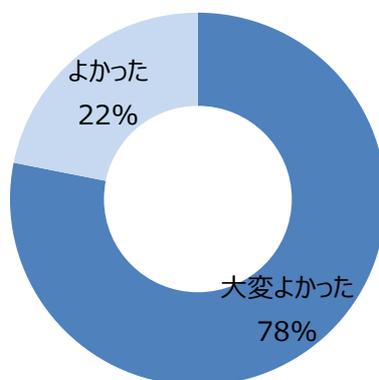
・今後の研修も期待しております。これまで自身が力を発揮できなかった分野にも活動が広がるよう頑張ります。

・東近江市で少しでもお役に立てるように提言・試案・行動・評価・改善そして効果ができるように取り組むこと。さらには、滋賀県でも社会貢献していきたい。

・多くの興味深い講義を受講させていただきありがとうございました。

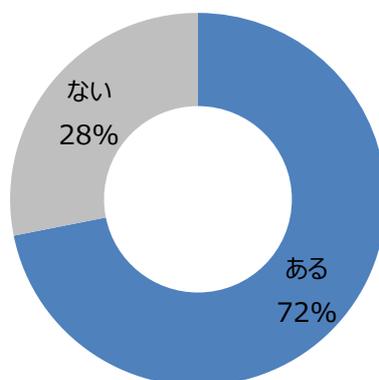
○研修全体を通じた印象

研修全体の印象



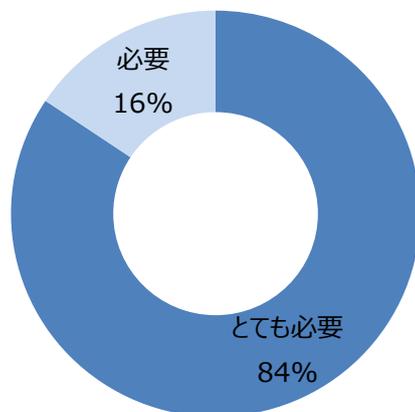
○研修を受講し、すでに実践や活動に活かしていること

すでに実践に活かしている行動や活動



○リハビリテーション専門職の医療・介護領域以外での活動の必要性について

リハビリテーション専門職の医療・介護領域以外での活動の必要性



事後アンケート結果 ～10回を通じて～（全文）

○研修を通じて学んだこと

・地域連携についての政策や、多くの施設、取り組みなど、現場でどのようなことを行っているのか、どのような問題があるのかなど、かなりの情報量だったと思います。どの講義も面白く、興味深いものでしたが、病院勤務をしている私にとっては、すぐに何かを変える知識というよりは、知っていることで、考え方の幅を広げることが出来るという事が多かったように思います。今後は自分の住む地域で OT として、何かの貢献ができればと考えています。

・老健、デイケアで働く中で、在宅復帰・社会参加へと目指しているつもりであったが、改めて地域資源の理解や地域住民の活動を知る必要があると感じた。

・また、高齢者に関わる人が多い中、幼・小・中の子供達が訪問してくれることの効果を感じていたが、高齢者が子供達のもとを訪問する機会を作ることや子供から高齢者までが共に活躍（活動）できる機会を企画・実践していきたいと感じた。

・他職種との連携については、信念対立説明アプローチや要因分析図等、活かせるものが多く、今後も取り組んでいきたいと思う。

・見学実習において、他事業所を見学に行けたことは大変貴重な機会であった。今後もこのような機会があると、新人教育や視野を広げるためによいと思う。

・周りに熱い仲間がいること。 横の繋がりを活かします。

・仲間ともに切磋琢磨して、地域創生・共生の実現へ 夢から現実へ運びたい。

・滋賀県のあらゆる社会資源が沢山あること。真似をすることが大事。

・小事の積み重ねが大事につながる。最後のプレゼンは非常に役に立つ。 やるかやらないかは自分次第。

・研修を受け続けるためには、体力がいること。ワクワク感で乗り切れた。

・能力より覚悟。分析も大事だが 50 パーセントの準備と分析で・あとは行動と感で行動を起こすと、仲間ができる。

・今日から新しい事業へ展開できた。皆さんのやる気が私を上げてくれた。（感謝）

・今回一番、感じたことは地域の方がリハビリの概念を持って事業を展開されている人が多いと思ったことでした。確かに

リハ職は、医学的知識や専門的な技術を持っていると思うのですが、それが足かせになることも多いのではないかと思います。なんとなくの印象ですが、リハ職はまだまだ硬いという印象がありました。また、このような現状にあることを多くのリハ職が知ることが大事であると思いました。それをどのようにシステム化するかが課題であると思いました。学校は、これからの地域共生社会を作っていく人材の場所なので、今回知ったことや知り合った人との繋がりを活かせるようにしていきたいと思いました。

・感じたこと：リハビリテーション専門職だけでは地域リハビリテーションは成立しないと感じた。地域には情熱がある方がたくさんいると感じた。

学んだこと：計画・実践・継続することの大切さを学んだ。学んだことを行動に移さないといけないと学んだ。

・職務に活かそうなこと：私の所属機関では様々な理由で直接的には活かせないことが多いように感じましたが、公的病院として「地域」を意識していかなければいけないという思いがより強くなりました。地域共生社会の中での急性期病院（特に公立病院）として情熱のある先輩・同僚・後輩に今回の研修内容を伝えていきたいと感じました。

・研修を受講しながら常に感じていたことは、どのようにして病院を抜け出せばいいのかを考えていました。病院の外にはこんなに魅力的な事がたくさんあるので、是非かかわっていききたいと思う気持ちが強くなったからです。病院側に提案する時には制度の概要は使えると思いますし、今後外に出て何をするのかは研修を通して少しは理解できました。それに困ったら周囲の方が知恵を貸してくれることも分かりました。まずは院外にでて活動する、それが大事だと感じました。

・視野が広がったと思います。作業療法士として行えること、意識しないといけないことが増えました。また、地域で現に動いている人たちのより良い活動の応援ができると思います。今は職場でこの研修で得た知識を生かすことしかできませんが、チャンスがあれば地域に生かしたいと思います。

・なんと狭い世界で自分は仕事をしてきたのか！という事が第一声でしょうか。医療介護の連携といわれて久しいですが、それ以外との連携を今回学びました。医療保険、介護保険以外につないでいれないと地域共生社会の実現なんてありえない。予防、教育に尽きる。そんな思いをより強くした研修でした。むかし、社会学で「think globally, act locally」と習った事を思い出しました。毎回違った角度から視野を広げていただき、時には思考を深める事を教えていただきました。日頃、仕事で地域のことを考える機会は多く、課題も多少なりとも見えては来ています。いざ、それをどうするか？という手立てがわからないのです。一人ではどうしようもない。今回の研修ではそれに対する一定の答えをいただきました。研修を終えて、さあ、ここからが始まり！という気持ちはあるのですが、何をしてよいのやら。具体的にと言うと言えませんし、今すぐ解決できるものではありませんが、確実に私自身が変わったので、同じ問題でも出す答えが変わってくると思います。これからもたくさんの人とつながって、お話し、情報を共有して、その時できることをしていきます。そのためには専門職として必要とされるように自分を常にブラッシュアップしながら日々の仕事に取り組むことが今できることでしょうか。

・職場が近いセラピストで自分たちの地域に対してできることを考えるという機会自体が貴重でした。できれば、次回の研修で実際にプロジェクトを実行していく。という流れにしてもよいかと感じます。今後も継続して行っていくべき研修であると思います。

・自身が関わってきていない障害者福祉をはじめ、医療機関との関連の少ない分野、医療機関から出た後の時期に関する知識の重要性、そしてその分野においても理学療法士等のリハ専門職の活動が期待されていると感じました。また、あまり知識が補充できていませんが、フットワーク良く多くの分野に活動を広げ、理学療法やリハ専門職の必要とされる分野、施設を知っていききたい、現状を理解していききたいと思います。

・全体を通じて感じたことは、全 10 回のプログラムの流れがとても学びやすく最後の実習や演習に結びつくことが出来たのはとてもよかったと思います。また、知識としても今まで関わってこなかった小児や就労支援なども知ることで視野が広まり「地域」の考え方が変わりました。同じ内容での研修ではなく演習の次につながるような研修会や最新の情報を得られる場があればうれしく思います。最後になりますが、貴重な研修の機会を与えていただき、備酒先生をはじめ事務局の皆様ありがとうございました。

・研修を通して、自分が思っていたより、リハ専門職の出来ることがたくさんあるということを感じました。特に、リハ専門職がしっかりアセスメントを行うことで、今まで代償動作で行っていたことが治療で改善することもあり、まずは自分の専門職の知識・技術をしっかり高めなければならぬと感じました。

そのうえで、広い視野をもって、互いの専門職の領域や得意分野等を理解して協働しながら、そして考えいろいろなアイデアを出しながら、強い意志をもって実行に移していくことが重要と感じました。

・私はもともと地域で働いており、以前病院勤務していた時よりも、視野は広がっていると感じておりました。しかし、さらに広い領域に対して、リハビリの可能性を学び、必要性があることを学びました。備酒先生が言っておられた、人の全領域に携わることができることと言う事はとても大事であると思います。そういう目線や、現場で活躍できる知識を習得していきたいとも思います。

・地域共存社会の理念や地域の資源について深く学べたため、実践の中で関わっている患児様の地域での生活を支援していくにあたり、ライフステージにあった支援方法や、必要な連携機関等が整理できた。

また、普段臨床の場で疑問に思っていることや対策を立てていきたい課題に対して、どのように事業計画を立てていったらよいか等詳しく学べたため、今後活かしていきたい。

・地域包括ケアというものに関しての、アプローチの多様性。そのことは、POS の中だけで考えてもこれだけある。他にも政策的なことや、活動、教育、啓蒙など、POS 以外の分野の人たちも包括ケアに関わっている。地域包括ケアというものはなにも POS のみで頑張っただけのものでもなく、POS の活動はその地域包括ケアシステムの中の一部であるということ。専門性はいかせるかもしれないが、そのことが地域住民の幸せへと還元できないでは自己満足の範疇を超えないということ。「自分たちがこうするのだ」といったアピールは必要ではあると思うが、その向こうにはやはり主役は地域の住民（もちろん自分も含めて）であることをいつも心の中に持つことが大切であると感じた。そのためには他職種の方々への尊敬と、自分たちの立場を客観的に眺めることができるよう意識することが大切。

日常の病院勤務でも、忙しすぎる時期は他部署との連携が難しくなることもあるが、そこは「患者様中心」の原点に立ち戻って連携を推し進めることが大切だと感じた。

・地域リハビリテーションの推進が図られる中、地域の現状や他機関のシステム等を十分に知り得ず、

狭い概念の中で支援していた現状を改めて感じる。リハビリとは直接的関与だけでなく、組織的な活動（連携やネットワークの構築）や啓発活動をも含めたものであり、地域包括ケアには欠かせないものであることを学ぶ。その中で、リハ職が地域包括ケアを支える専門職として参画の場があることを知る。

職務においては、障害児者への地域での活動の意識や場の促進、活動の場の開拓、地域への多様性・理解の啓発活動に携わる等で活かすことができる。

・今後、地域に関わる専門職となっていくために、地域リハビリテーションについての知識を増やしていくことの大切さや地域との関わりを深めていくような多様な経験をすることも大切だと感じました。

・今回の研修では分析する力・考える力・伝える力の重要性も感じました。リハビリ専門職だけでなく、関わっている方と情報を共有できるかも大事になってくるので、普段から意識して仕事していきたいと思います。

・こんな政策が必要なのではないかと真剣に考えたことで、地域リハビリテーションの専門職として関わっていけるところがたくさんあるのではないかと感じました。

・法律や制度、サービスの種類、支援内容などの知識を増やし、理解できるように深く学ぶことができました。

・就労支援についての知識や作業所見学などの経験を通して、デイケアの利用者に対しても支援できる部分があるのではないかと感じ、改めてどんな支援ができるのか考えていきたいと思います。

・地域共生社会の実現に向けて、障害児(者)と健常者、子供と高齢者など縦割りで分けてしまっている考え方や制度を変え、環境や地域住民の理解が進み、誰もが安心して暮らせる地域を目指していきたいと研修を通して感じるようになりました。

研修会全体を通じて、リハ職は、様々な場所や場面で活躍できる職種だと改めて感じました。そして、施設という枠に閉じこもるのではなく、視野を広げて専門性を発揮できればと思います。しかし、所属している施設長等の理解をどのようにしていくかも地域で活躍するためには課題になってくると感じました。

・志の高いみなさんの中で、充実した研修を受けさせていただいたことに感謝しています。自分にも子供がいることや障害を持たれたお子さんの親御さんとお話する機会もあり、少しでもそういう方々が安心して暮らせる地域づくりができると良いなとおもっています。

同じ湖西地域から多くの先生方が受講されていることもあるので、少しずつリハビリ職がコーディネートし、学校訪問などまだできていないが今後必要となることなどを進めていきたいと思います。

まずは小児領域の研修に参加し、自分の知識や技術を高めていき、デイケアという介護の職場ですがそこからでも小児や学校訪問などに行ける環境づくりをしていきたいと思います。

・今回の研修を通して、知識の幅を広げることが出来たような気がします。研修を通して、自分自身が狭い範囲（医療介護）のみで考えていたことに改めて気づくことが出来ました。今までなんとなく、自分とは関係のないこと、無理だと思い込んでいただけで、勝手に範囲を狭めていた気がします。

研修で知識をもったことで、訪問リハビリで関わらせていただいている利用者様の可能性の幅を広げられることが出来るのではないかと感じています。また体操教室やサロンで関わらせていただいている方々に対しても自信をもって関わられるようになりました。

・今までは、自分の職務（介護保険分野）にしか興味がありませんでしたが、研修を通してそんな考え方だけではないことがわかりました。誰もが暮らしやすい街づくりをしていくためには、いろんな領域を把握し、包括的に考えていかねばいけないことを知り、もっと高島市のリハ職が連携していくことが必要だと感じました。一人の力では地域は動かさなくても、リハ職で力を合わすことで何か変わる気がしました。

・上記、設問 8 にもありますが、医療や介護以外の領域でいかに活躍できるか否かが重要だと感じました。民間企業には文学部出身者、法学部出身者、理学部出身者など、さまざまなバックグラウンドの方がいると思います。そこに、医療や介護を学んだリハ職がいても不思議ではないと思います。この研修を受ける前までは、あまりこのような発想は浮かんできませんでした。

個人的には、生涯スポーツを学んでみたいと感じるようになりました。登山は完全に趣味ですが、それを題材に発表を考えていくと、様々な論文があり、生涯スポーツの果たす役割を実感できました。他の方の発表は全世代や地域すべてを巻き込むということが含まれていましたが、私の発表は対象者がある程度絞ったものでした。良い・悪いは不明ですが、最初は限定的に始め、徐々にその範囲を拡大していけるような事業になればと考えています。

今回の研修会を通じ、もっと自由な発想を持って良いのだと感じました。医療・介護の分野は、幾分閉ざされた空間であり、あまり派手なことは望ましくないと感じますが、可能な範囲で、自由に考え、連携できるのが理想だと感じます。

・地域リハビリテーションでリハ職の関わる範囲が思っている以上に広いことを特に学んだ。

なかなか病院で働いていると、その分野でしか関われないと思ってしまうが、自分の持つ知識や技術は別の分野でも活かせるのではないかと感じた。県職員としてどのように関わっていけるかは今後考えていくべき課題であるが、少なくとも、就労支援に関しては、継続して行っていきたい。それ以外の分野でも関わる機会があれば是非関わっていきたい。

・今回の研修に参加したことで、多くの講師の先生と出会い、話を聞くことで、自分たちが所属している組織での業務だけでなく、地域に貢献することができる方法があることを学べたと思います。

課題を抽出する方法、また分析する方法、人との考えを共有する方法を理解することで、自分たちの職場での問題に対しても、解決していく手段を見いだせるように思います。

滋賀県内の多くのセラピストに出会えたことも貴重な機会ではありましたが、高島市のメンバー間で共通した考え方や意識がもてたことも、今後の地域での取り組みに大きな力になると感じます。

・「地域リハビリテーション」の根本から滋賀県および全国的な実践活動を学ばせて頂き、改めて自分が今後、やりたいこと、必要なこと、求められていること等を考える機会になりました。

関係職種や環境、地域を含めた対象者の見方を学ぶことが出来ました。みんなが見える資料や話し方を考えて普段の会議にも臨むことができるように思います。

この研修を受講して、地域で活動されている方々の話をたくさん聞く事が出来ました。小児・障害・地域と関わられていることで、現在住んでいる地域・職場のある地域の事を知る機会も得られました。知らないままでは、地域リハもあまりイメー

ジする機会を逃していたと思います。見学では、その施設の方針や課題・工夫などをする事ができ、職場でも生かせそうな事（介護用品の工夫や利用者との接し方など）を学ぶことができました。

・疾患も、動作も、生活も見ることができるリハビリテーション職が、地域共生社会を実現するうえで期待されていることを強く感じました。地域でどのようなことをしていくのかは具体的には見いだせませんが、管理職として少しでも病院のリハ職が地域に興味をもつような環境づくりはしていきたいと考えます。

また、多職種連携をする際に、「状況と目的を確認すること」、「K P D C A。知らないことには議論できないこと」の研修はとても印象に残りました。現在の職務で意識して取り組んでいます。

・リハビリは機能訓練ではなく、社会参加の部分にも目を向ける必要があると、頭の中では理解していましたが、実際の業務の中ではあまり意識できていなかったことに改めて気づきました。リハビリの目標に関しても今回の研修を活かし対象者の生活を意識して立てていこうと思います。また地域資源には自分の知らない資源が数多くあり、こういった資源に対する知識も今後も高めていきたいと思います。

・障がい児者には日頃関わることが少なかったことから、現状を少し知ることができた。また、備酒先生と安本先生からはリハビリテーション専門職の日頃の業務の在り方や、今後地域でリハビリ専門職に期待することなどを学ぶことができた。最後の演習では、地域共生社会という広いテーマということもあったが、一つとして同じものがない多種多様な企画がでていた。それぞれのいいところを今後の地域づくりの参考にさせていただきたいと感じた。

○ すでに行なっている実践

・病院勤務ですのですぐに活かしていくことは、難しいように思いますが、退院や入院される方々の今後を考えていく上で、考えていく幅が広がっていくように思います。

・苛立ちを感じた時にはマインドフルネス呼吸法と笑う。

・後輩育成や多職種連携に要因分析図・信念対立解明アプローチを用いて、課題の可視化と共有。

・暗黙知や言語化の難しさについて、管理職間に伝達。

・就労支援を事業として具現化している。

・保育所等訪問指導について、動きだしました。

・中学校での啓発事業。慎 the spilit との協同事業。

・今後、今回の研修で勉強させて貰った人と一緒に地域サロンの活動に参画していく予定。

・当院は近江八幡市所属の公的病院です。急性期病院ですが公的病院職員として近江八幡市で開催されている「つながりネット」へ参加継続し、他のスタッフも参加するように呼び掛けています。

・来年度から、高島市リハビリ連携協議会に参加、今回立案した施策を試みたい。

・就労移行支援事業所を2か所見学させていただき、自分の中での就労支援の選択肢が増え、ビジョンが描けるようになった。働きたい人はたくさんおられるが、みなさん具体的なイメージがわからないので諦めてしまわれていることが多い。支援者が具体的な青写真を見せることができれば、結果も変わってくるのではないかと思います。

・現在、通所リハご利用中の40代と50代の方2名に対して、CMと協働して具体的に就労移行支援につなげることを目標に支援している。また、現職復帰をすることを目的に利用開始される方も出てきた。通所リハのあり方もどんどん変わっていくのかもしれないと感じている。

・障害児のリハビリニーズに対して、訪問看護リハで対応できるようにしています。

また、グループで考えていたプロジェクトに関しては、すぐに実行はできなくても、目的達成のために協働して行えることをメンバーで話しています。プロジェクトを同じ地域のメンバーで話し合えるのはとても有意義な時間でした。今後も、メンバーでの交流を継続し、地域に対して行えることを一緒にできたらと考えています。

・現在の通所リハで他の専門職との関わりの中で、利用者受付の際には、理学療法に関する知識を提供することだけでなく、まずは相手の想いを知ることを第一にして連携をとることを心掛けています。

・部門内での事業案や会議等でも、学んだ企画案の提案の仕方を意識しています。

・出来るだけいろいろな視点から地域課題を考えるようにし、地域課題に対して何が出来るだろうかと考えながら、行政と意見交換できる場では、考えを提案しています。

・高島市小児領域リハビリ人材育成研修

・地域共存社会の理念や地域の資源について深く学べたため、実践の中で関わっている子どもの地域での生活を支援していくにあたり、ライフステージにあった支援方法や、必要な連携機関等と連携を取りながら支援を行うように心がけている。

・高島市小児人材育成カリキュラムの立ち上げ

・地域でのケース会議への参加

・支援者間連携

・作業所訪問（作業所との業務委託提携の元）

・利用者や他職種への活動団体の紹介

・就労支援事業所での就労者(障害者)に対して、姿勢調整や動作支援を行いました。

大きなことには取り組めていませんが、日常業務の中で、介護職やケアマネジャーなど他部門の方とお話する機会が多いので、現状を説明するときなど、専門用語を使わないようにし、動作など口頭での表現が難しいときは動画などを使用し情報を共有するようにしています。

・老健からいくデイサービスへの出前講座と、関わらせていただいているサロンで、安本先生の講義を受けて教えていただいた内容を元に、再度スライドを作り直し、集団への関わりへのアプローチの仕方などのお話をさせていただいています。

・サロンで実際に体操をされている方々に対して、体操をする為の目標を立てていただき、3ヶ月ずつのフォローに入ることになりました。

・サービス高齢者住宅の住民に対して体操教室を開催することにしました。（H30年3月2日より）

・訪問リハ利用者様を復職支援へつなぐことが出来ました。

・最後の研修会で発表させていただいた企画を、今後高島地域で実際に活動していくことになりました。

私は、今まで高島市リハビリ連携協議会には参加していませんでしたが、これからはこの企画の事業部員として参加させて頂くことになりました。また、高島市で行われる小児人材育成講座にも受講させていただきます。

・個人的に、今回の発表で作成したもの（山登りと健康寿命）に関してですが、事前に職場で各職種のみなさんに聞いていただいたところ、賛同していただく方が多く、まずは職場での山登りを行えそうです。また、その際に知り合いのNPO関係者や登山趣味の方を紹介していただけるようになりました。私自身は、元々山登りが好きだということを職場の方に十分伝えていましたが、健康寿命の延長という背景があったということを皆さんに理解していただき、非常にありがたいことでした。

まずは、自分の職場の数名の参加から、山登りでの健康寿命延長というイベントを開催できそうです。これを少しずつ、長い時間をかけて拡大していければと思います。

・就労支援を継続して行っている。特に、他機関との連携が必要であり、定期的に連絡を取り合うことや、職業センターとの共同勉強会などで交流を図っている。

・高島市地域の共生社会の実現に向けて、高島市の市の職員との話し合いの中で現状の課題を確認しあい、小児領域へのリハビリ介入が不十分であることがわかりました。その原因として、高島市の医師会、行政の問題とリハビリ専門職の知識・経験不足が課題としてあがりました。

そのため、関係各方面と協力を仰ぎながら、高島市のセラピストを対象とした、小児領域の人材育成事業を来年度より

1年間の事業として実施していくことになっています。事業費用に関しては、個人で負担する形ではありますが、多くのセラピストが参加予定です。また、障害児・者に関わる機会を持つために、障害スポーツの分野で、地元のスポーツクラブと連携し、ポッチャを実施していきます。

・既に実践に活かして行動や活動について具体的に行っていることはないですが、病院内での勤務だけでなく、地域との繋がりを持てる活動・業務を行いたい旨は常々、上層部には伝えていきます。

今の所属に異動して1年が経ちますので小児・発達領域において取り組みが必要な内容も少しずつ見えてきましたので、次年度に向けて行動化出来るように計画・検討を行っていければと思います。

・自治会の福祉推進委員会の設置へ計画中で、年度明けには古い農作業所を利用したフリースペースの開設を目標に、昔写真展を開催予定。自治会の高齢者も何かしたいと意見が聞かれるようになっている。

・受講前から地域の廃校になった小学校の体育館を毎週金曜日に開放。開催当初は僕が参加したかったため夕方しか開放していなかったが、児童の帰宅時間に合わせて開放時間を変更。参加人数は増えている様子。展開について検討。

・感情のコントロールは日々気を付けています。

・腰痛予防の体操を職場にて行っていきたいと思います。

・最終の研修会での皆さんのアイデアを、少し工夫して、まずは自分の職場にて形にしていけたらと思いました。（カフェの店員や畑など）

○その他

・多くの興味深い講義を受講させていただきありがとうございました。

・東近江市で少しでもお役に立てるように提言・試案・行動・評価・改善そして効果ができるように取り組むこと。さらには、滋賀県でも社会貢献していきたい。

・非常に申し訳ないと思うのですが、やはり滋賀県で唯一の学校ですので、なんとか作業療法士の普及や人材教育に色々なご支援を頂くことはできないでしょうか？また、こちらとしても積極的に協力をしていきたいと思っています。私的な意見ですが、今の学校の立地環境や滋賀県内での中高校生の作業療法士の認知度を考慮すると今後、滋賀県で作業療法士を養成することは明るくないと思っています。この現状を打破することは日々、学科内でも協議していますが、うまく進まないのが現状です。

他の養成機関が滋賀に参入し、滋賀を盛り立てていくことも有とも思っています。滋賀県としてどのようにお考えなのかを教えて貰えればと思います。すみません。

・私は公的病院（急性期病院）に勤務して6年が経過しました。その経過の中、様々な研修などで出会う専門職の方の影響を受けて、本当の意味で「人（地域）のため」になるような仕事をしないといけないと感じてはいました。また、公立病院の役目として行政と協力し地域リハ（地域共生社会）を実現していくべきだと感じていました。しかし、恥ずかしながら利益に主眼を置いた病院の経営方針や「地域」に出ていけない病院スタッフ（私を含め）が多い現状の中、上記のような「地域リハ」は理想でしかなく、当院所属ではなかなか協力できないのではないかと諦めがちでした。

今回の研修を通して地域には情熱を持った専門職がいて、貴施設の様に行行政を巻き込んでの研修をされている事を知り、公的病院に所属しているスタッフこそ（私も含めて）「地域共生」を念頭に置いたうえで、自分たちの役割を再確認しないといけないと感じました。また、以前からそう感じていたものの行動に移せていなかったため、地域共生社会を見据えたうえで自分にできる事を当院の中で少しずつでも行動に移そうと思いました。

また、来年度以降もブラッシュアップされて本研修を開催されると伺い、次年度もぜひ参加させていただきたく思っています。なお、私用としてでも構わないので少しでも私に協力できることがあれば気軽にご連絡いただきたく思っています。

最後に、本研修を企画・運営していただき、本当にありがとうございました。今後とも、ぜひよろしくお願い申し上げます。

・いかにしたら地域に出ているのか、職場では検討すらできない現状です。しかし、地域との結びつきを意識して仕事することで活動の芽を見つけることもできるのではないかと思います。個人的には来年からは職場を離れるので、地域に出る仕事を探していきたいと思います。

自分に何ができるのか、具体的なビジョンはありませんが、今できることコツコツと続けていきます。志を持ち続けることでチャンスをつかみたいと思います。多くの方々のご尽力によりこのような研修をしていただけたことに感謝しております。同じ志をもつ仲間が増えることも重要かと思えます。今後もこの研修を継続し、多くの仲間を輩出していただきたいです。ありがとうございました。

・実習もよかったです。実践ができる機会もあっても良いかと思いました。とても有意義な研修でした。参加できて良かったです。

- ・今後の研修も期待しております。これまで自身が力を発揮できなかった分野にも活動が広がるよう頑張ります。
- ・滋賀県や現在働いている湖南省、住んでいる栗東市などで理学療法士として地域リハビリテーションに関われることがあれば協力していきたいと考えています。今後ともよろしくお願い致します。
- ・10回の研修を通じて、大変参考になることばかりで、勉強になりました。また、自分の中で地域リハビリテーションに対する理解が深まったと思います。本当にありがとうございました。
- ・まずは地域の POS 仲間と楽しくやっていきたいと思います。
- ・研修後の地域リハの推進に向けた具体的な取組み等の明示にて、途切れない活動へとつなぐことができるのではないかと感じました。また研修終了以降の取組みへの相談/後方支援の窓口（地域包括ケアを推進/サポートする部門）がありましたら、より地域活動が推進されると感じました。
- ・各地域での地域共生に向けた取組みや活動の進捗状況を共有する機会（事例報告会等）が今後ありましたら参加したいと思います。
- ・この経験を活かし、さらに深めていくことで、今後は職場(デイケア)の中だけでなく、地域との関わりがある専門職として、地域共生社会の実現に向けて関わっていけるように頑張っていきたいと思います。
このような機会をいただいた事に感謝しています。
- ・今回研修にて、地域で活躍されている先生方の話、（特に高畑先生・安本先生のお話はすごく印象に残っています。）を聞いたことが、すごく良かったです。また就労支援について知ることが出来て、施設見学が行えたことは、本当にいい経験をさせていただきました。参加させていただき、ありがとうございました。
- ・貴重な研修会に参加させていただきありがとうございました。
今後も、この研修会が続き、地域リハビリの考え方ができる人材がもっと増えていく事を願います。
- ・あまり固く考えるのは苦手なので、自分が楽しめるような発想を持ちたいと思います。
ありがとうございました。
- ・修了者が研修後、どのように地域に貢献しているか、新しいことを始めているかなどの情報を定期的に発信してほしい。
- ・科内で伝達講習するため、支援部で報告のためにまとめた資料をお借りたい。
- ・高島市では、まず来年度から数年の計画で、小児領域の課題（セラピストの人材育成、地域の小児領域にセラピストが介入するシステムづくり）に対して、行政や医師会とも連携しながら取り組んでいきます。

また、同時進行で、高齢社会の課題（介護予防、引きこもり、認知症など）に対しても、社協や行政と連携して、住民主体のコミュニティーの形成に取り組んでいこうと思います。

・貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

・ピラティスや足、靴などに興味があるので、健康増進のための取り組みなどに関わっていけたらと考えています。

・研修前の自分の知識不足もあり、今回の研修内容を正確に理解できたかといえば、できていない部分が多々あると思います。理解できた部分に関しては業務に活かし、できていない部分に関しては今後も研修会や自分でも調べ、知識を高めていきたいと思っています。また知識を高めるだけでなく実践できるようになっていきたいと思っています。

滋賀県立リハビリテーションセンター 事業推進係

〒 524-8524 守山市守山 5 丁目 4-30

TEL 077-582-8157 FAX 077-582-5726